

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 255

2004年 10月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



生協にはもっと文化面の充実とATMを復活して欲しい
村上隆教育発達科学研究科長

名大生協のホームページ(URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会へのe-mailあて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

主張《夏に学んだことを今後の活動に活かします》	3
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待—研究科長へのインタビュー⑨	
村上隆教育発達科学研究科長	4
【企画】	
Fエース（生協）リンゴの産地見学	16
環境講演会「風力発電の現状と展望」の案内	17
フィールドワーク「久居榊原風力発電施設の見学」の案内	17
【報告】	
Educational Coop をめざして〈全国教職員セミナー2004〉	18
秋の委員会企画に乞期待〈下期方針合宿〉	22
京都大学生協教職員委員会との交流会	23
快晴の御在所岳ハイキング4月29日の報告	24
教職員委員会の活動日誌	25
「化石山」と日中不再戦の誓いの碑を訪ねての報告	26
名古屋大学平和憲章エッセイの審査結果	28
入選作品「戦争から考える平和感」	29
マイバッグ運動は終了します	35
【記事】	
秋の生協強化月間（10月～12月）	23
ひとりごと「中国のサッカー「暴動」の報道に思うこと」	27
投稿「8月6日に思うこと」	30
新フィールドノート—その84—	
「台風の間隙を縫って」	32
魔言「ツメで拾って」「うら盆・三位一体・さんげ」	34
ニュースに一喝「選手ふぜいが」「テロの原因」	38
かけはしの輪	36
アンケート・クイズ解答用紙	40
CO-OP QUIZ<Logic>	41
循環型の大学を目指して	裏表紙

主 張

記録的な猛暑も収まり、キャンパスは再びあたたたしさを増してきました。

法人化元年、今年の夏は、せつかくの5日間の休みも取ることが出来ないという方も多かったようです。それでも旅行など、普段では出来ないことに挑戦し、充実した夏を過ごされた方も多いことでしょう。

名大生協も、この夏、さまざまな分野ごとに開かれた全国大学生協連主催のセミナーに参加し、たくさんの方の事を学びました。

「全国教職員セミナー」(8月24・25日、大阪教育大)には、教職員委員会の4人と、星野副理事長、今井専務理事が参加しました。「Educational Coord」をめざして「のテーマで8年ぶりに開かれた

全国セミナーでは、生協の教育的機能を高める活動について討論されました。(詳細は本文を参照)

全国セミナー終了後は、東京大学生協教職員委員会メンバーとともに京都大学に立ち寄り、京都大学生協教職員委員会を含め3つの教職員委員会の活動交流とともに、京大

夏に学んだことを 今後の活動に活かします

生協の店舗を見学できました。

院生委員会は、大学生協連東海地域センターの主催で開かれた「院生夏合宿」(9月4・5日、東海会館他)に参加しました。全国規模の「全国院生セミナー」(10月10・11日、東京コブイン渋谷)にも参加する予定です。

イキイキした大学生活」をテーマに、東海地域センター主催の「サマーセミナー」(8月8・10日、吉良温泉)に参加しました。

コンピュータ、共済、食堂、書籍などの各分野の事業に関連したセミナーにも生協職員と学生が参加しました。大学

生協会館、「書籍部門セミナー」(9月3・4日、名古屋中京大)です。

大学生協の平和の活動として毎年開かれている「ピースナウ・ヒロシマ」(8月4・7日、広島)、「ピースナウ・オキナワ」(9月1・5日)に名大の学生・留学生が参加しました。

そのほか、「ICAアジア太平洋地域協同組合青年セミナー2004&アジアスタディツアーinマレーシア」(9月3・11日、マレーシア)に学生1名が参加し、「Remember1.17」(9月25・26日、神戸)にも参加しました。

ここにあげた全国および東海地域のセミナーに参加した代表が学んだことを、名大生協全体で共有できるようにするとともに、秋からの活動や事業に活かしていきます。秋からのパワーアップした名大生協にご期待ください。同時に、皆さんの率直なご意見・「声」をお寄せください。よろしくお願いいたします。

学問の魅力、学生、生協への期待

— 研究科長へのインタビュー ⑨

村上 隆 教授

(むらかみ・たかし)

教育発達科学研究科長

研究の仕事がしたかった…

今井 先日、教育学部の学生さんについて、生協のほうにインタビューシップのお申し込みをいただきましてありがとうございます。

村上 こちらこそありがとうございます。

今井 よろしくお願ひします。
この間、学内の研究科長先生にインタビューをさせていただいておりました。いろいろな先生方から、生協に対するご意見やご意見をいただきながら、生協の活動に役立てていきたいと思っています。どうか忌憚のないお話を伺いたいなと思っています。

加藤 よろしくお願ひします。以前に一度、学生がインタビューをさせていただきました。

村上 えー、そうですね。あの時はちょっといいかげんな話をね。ちょうど、この建物の大改修が終わったところで引越しの最中で…。加藤 ダンボール箱が置いてある写真がありました。今回のインタビューは、『かけはし』に掲載する予定です。『かけはし』の読者は教職員と院生の方ですが、学生

さん方にも見ていただけるように、生協のページのページにも出しています。

村上 あ、そのほうにも出るんだ。

加藤 ええ。非常に面白いお話が多いものですから。先生方が研究者としてどういうことをされているのか、非常に興味のおありの方もあるものですから。今日は、最初にそういう先生の教育関係での研究とか、お仕事の話を…。

村上 はい。

加藤 あとは名古屋大学が、今大きく変わってきて、発達教育学研究科も色々新しいことをされていると思いますので、大学の変化とか、これからの話を…。

村上 はい。

加藤 あとは、読者の方、特に若いみなさんにアドバイス。さらに生協にもアドバイスをいただければ幸いです。ではよろしくお願ひします。

五代続いた医者の家系でしたが

村上 私が研究者を目指すといま

すか、大学に入ったらやっぱり研究をするような仕事をしたいたなと思うようになったのは、実は高校の半ばくらいだったと思います。ただ、ほんとに、よく言う自分探してはいいですけど、自分が何をしたいのかということが分からないというような状態でした。

実は我が家は、私の親父まで五代続いた医者の家系でした。それで、たまたまその開業医として家業を継ぐということは、したくなくて。どうも祖父と父親を見ていて、けっしてどちらも満足しているとは思えないといえます。か、今風に言えば、開業医という仕事で自己実現がはかれているとは思えない、という印象があったものです。自分はいかにわゆる学者のようなもののほうが向いているんじゃないかと、ずっと思いつけていたんですよ。ただ、何をしたいか全然わからない。しかし、どうも理系というよりは文系ではないかという思いはありました。しかも社会科学系というよりも人文系なんじゃないか。ただし今までのうちの一族からすると、あまりに急展開ですので、非常に迷っているというか、悩んでいます。

心理学を選ぶきっかけは、かな

(8月2日教育発達科学研究科長室にて)



心理学を学ぶきっかけは、
「サルバドール・ダリ」の回顧展を観て……。

村上 隆 教授 (博士・心理学)

【現在の専門分野】

計量心理学、記述的多変量解析

【現在の研究課題】

主成分分析と関連する記述的多変量解析技法の開発

心理測定の基礎に関する研究

りはつきり覚えています。県立岐阜高校の二年生だったのですが、ええ、住んでいたのは岐阜でした。それで、超現実派の画家・サルバドール・ダリの回顧展が、愛知県美術館で開かれていて、ちょうど東京オリンピックの前後だったと思います。それを見に行くと、自分の中にある形をなさないといいますが、あるいは合理的でないといいますが、そういったものに何か形を与えていくようなところに感動を覚えました。そこにある、ある意味では、常識とか、普通とかいったものとは少し違うところにあるものに、自分の目指しているものを見出したというような風を感じたのです。まあ、今になって言えばですが。

そういったところから知った、例えば精神分析学—超現実主義の絵画から精神分析学を知るというのも、ずいぶん異例な話だとは思いますが—だとか、もしかしたらこういうものが心理学なのかなと思っただけの話ですが……。結局、行くなら文学部。で、専攻は心理学っていうようなことに、十分な根拠もないまま決まっちゃいました。ただ入ったところは、結局教育学部でした。

私が行っていた大学では、うち

で言う文学部と教育学部でやっている心理学と一緒にやっているようなところでしたので、結果的には、基礎的な心理学、今、文学部さんでやっていらつしやるような心理学と言えはいいのかな。人間の認識の過程をやるということになりました。

選んだのは計量心理学



【写真】インタビューに答える村上研究科長（左）。（8月2日、教育発達科学研究科長室）

しかし、やっていて、なんかこれって違う、思っていたのと違うなという感じがあって…。一方では、ちょうど大学に入った頃が、大学紛争の勃発期みたいなものでしたから。そういう中で、従来型の学問の枠組みにいろいろ疑問を持つようになったということもありました。その時点での心理学の在り方に、よくわかってはいないんだけど、こういうのとは違うんだ、というのがあった。で結局、選んだのが、計量心理学です。これは今、自分のところの教育、研究領域の名前になっています。

簡単に言えば、統計学を心理現象に応用するような学問とでも言うんでしょうか。あるいは、いろいろな質問に対する答えを通じて、心理学的な個人差を測っていく。そういう学問に結局興味を持つようになりました。何か、最初の意志とすこくかけ離れていると思われるでしょうが、先に言った「形にならないものに形を与える」ところに惹かれたのでしうね。ただ文系の出身者ですから、理系の人たちと一緒にやっていくというか、そういう分野で競争していくような自信もなかなか持てなくて。結局中途半端なまま35、36歳まで過ごしてしまったように思います。

ます。

ここに着任したのが1975年でして、今からほとんど30年前ですね。27歳で助手でした。わりあい早く助教授にしてもらいましたが、これが自分の仕事だと言えるようになったのは30代の半ばから40歳近くだったように思います。心理学でよく使われる言葉でアイデンティティというのがあります。アイデンティティ、つまり自分というものがどういうものであるか、ということに對するある種の確信というものが出てきたのは、40になる少し前からいからだったと思います。

今、いろんなところで自己紹介をさせられて、「専門は何ですか」と言われた時に、「計量心理学です」と言いますが、その後につけて加えるのが、「多変量解析」という言葉です。「多変量解析の手法を使って、調査データの分析をする方法を開発しています」というようなことです。これは、統計学の一分野である多変量解析を応用して、例えばアンケート調査のようなものから、個人の特性を測るということが自分の仕事ですと、自信を持って言えるようになってきたですけれども、ただ、自分の仕事にそこそこの水準のものになっ

ているのかどうかということには自信がなかった、そんな自信のない時代がまだ続いたと思います。

40代の終わり頃、オランダに一年間行かせてもらって、そこで作った研究仲間—こちらは知っていたし、むこうもある程度、私の論文を引用したりはしてくれていたんですが—と初めて個人的に出会って、一緒にやるようになって、その後、本当にこれが自分のものだ、自分が一生をかけてやるということではないんだといううな、確信を持てるようになって。つまり50過ぎてやっと自分が何をすべきかということがわかったというように感じですね。そういう情けない話なんです。

計量心理学がどう生かされている

加藤 計量心理学というものがどんな風に生かされているのかという話を話していただけると、もう少しイメージしやすいと…。

村上 そうですね…。何か質問をして、その答えを統計的に分析していますなんて言うのと、一つひとつの質問に対して、それぞれの答えが何%とかいうような集計は誰でも思いつくことですね。だか

らアンケートの答えを集計することではないかと思われることが多い。

でも、私たちがやっていること、目指していることは、少し違います。個人の方の複数の質問に対する回答を総合する。単純に言えば、足すことによって得点を出す。つまりたいていの人は項目単位でそれぞれこの答えが何%、その答えが何%というようにするんですが、こちらはむしろ個人がどう答えているかということに、関心があるわけで。例えば、「人と一緒にいることが好きか」という質問に対して、「はい」か、「いいえ」がありまますね。それから「気分が落ち込んだ時は、他の人に慰めてもらいたい」という質問、これも「イエス」か「ノー」かがありますね。この二つの質問に、両方「イエス」と答える人、両方「ノー」と答える人は多いけれども、一方が「イエス」だけれども、一方が「ノー」という人は、少ないということがあります。これは統計的には、先の二つの質問に対する回答

の間に相関があるということですが、もう一つ踏み込んで考えると、他の人と一緒にいたいという欲求、親和動機などと言いますが、そういうものを、この二つの質問はともに反映しているんだということになるわけです。親和動機なるものが人の脳の中にあつて、何らかの機械によって観測できるとか、そういう意味で本当にそうかどうかはわかりませんが、でも、そういうものを想定してみると、人間の考えることとが振る舞いといったものがわかりやすくなります。そういった質問をたくさん集めて、いくつ「イエス」と答えたかということ、人ごとに集計してみると、得点の違いが出てきます。そうすると、みなさんご存知の正規分布みたいな形をとることが多い。さらに、どうい

うに親和動機が高いのか。親和動機が高い人には、他にどういふ特徴があるのか、というようなことを調べていくことによって、心理学的な法則が見えてくるということがあります。だから、一つひとつの質問に対して、どう答えているのか、政党支持のようなものだったからそれでいいのですが、複数の質問に対する答えを通じて、その背景にある心理学的な次元、個人差というものを解明していく、あるいは測っていく、というのが計量心理学というものの目的であると考えていただければいいと思います。

情とか、意の部分に関わる個人差を測る

同じようなやり方が、当然、能力を測るためのテストにも使えます。実際、テストってそういうものですよ。たくさん問題があつて、いくつ正解したかということ。個人差を測っていく。それと同じようなことを、結局アンケート調査のようなものにも適用して、個人差を測っていく。だから能力に関する個人差を測るのを普通のテストだとすると、能力だけではなくて、まあ、知情意という言い方をすると、情とか、意の部分に

関わる個人差を測っていく、点数化していく。それをまた統計的に分析することによって、心理学的な法則というものを明らかにしていく、というのが計量心理学だと思っています。

それが目的ですが、個々のケースについて言えば、それをどういう風にうまくやっていくか。例えば、さっき挙げた二つの質問にしても、厳密に言うとき少し違うことがわかってきます。つまり、人といふことが好きということ、人から慰められたいということとは、同じ親和動機といつても少し違う側面があります。そうすると例えば30も、40も質問した時に、その中にどのくらい違う要素、先ほどの言葉で言えば次元ですね、個人差を測る次元が幾つ含まれているのかということ。それを事前にあまりこの項目は何を表している、別の項目は何を表している、ということがはっきりしないような段階で、データの方からいくつの次元があるのか調べていくための方法は因子分析(factor analysis)といわれています。これは少なくとも心理学がその研究の中で作り出してきた方法としては、わりにユニバーサルな、いろんな分野でも使われるよ

計量心理学―

統計学を心理現象に応用するような学問。

高校生1100項目ほどの質問で、後に 中退する生徒の8割まで識別できます。

うになった方法ですね。

ちょうど今年は、因子分析に関する最初の論文が書かれて、100年目になるそうで、私も出席するつもりですが、今年の10月には国際シンポジウムも予定されています。この因子分析という方法の周辺が、狭い意味で私が専門にしている分野です。これは一面では職人の仕事という面があつて、数学的にいろいろなテクニックを使います。それはそれで面白いところではあります。結局、技術のための技術をやっているわけではなくて、そういうことを通じて、さつき言ったような、情や意に関わる個人差をいかに測っていつ

て、それについて心理学的な法則を、どのくらい堅固なものにしていけるか、見出していけるかというところをやっているとお考えください。

こういうことにどんな応用があるかということですが、いろいろあります。最近、注目されている分野に、QOLというのがあります。Quality of Lifeで、一般的に言えば、どのくらい気分がいいかというような話なんです。それをある程度客観的に測る必要があります。例えば、聞いているところによれば、抗がん剤というのがあります。あれの効果を一掃はつきりしたメジャーは、どれだけ腫瘍が縮小したかということなんです。ところがもうこれは限界なんだそうですね。そうするといかに副作用が少なくてそれが実現できるかということに今や焦点が移っているのです。そうすると副作用が少ないということは、結局主観的に気分がいいか悪いかということに究極的にはならざるをえない。ということになると、

そのQOLをいかにきちんと測れるかということです。

実は結構、開発費を投じた薬が認可されるか、されないかがそれで決まる。ですから言葉による質問に対して、「はい」か「いいえ」かなんて、ご本人だつてどっちでもいいけど今日はこつちにするかという程度の話で、非常に頼りない話ですが、実はそういうものも、さつきからたくさん質問と言っているように、一つの束にすることによって信頼性が上がるといことは事実で、薬の認可不認可というところまで、こういう計量心理学的なやり方で得られた結果が反映する時代になってきました。そういう意味できちんとした理論や方法を作っておかないといけません。

高校生の中退に関する研究

それから、最近私自身携わったもので、興味のある結果が出たと思っているのは、高校生の中退についてです。ある県教育委員会

と、教組と両方から依頼を受けてやった研究です。こういうことは両方が一緒にならないとできないんです。教育委員会が許可しなければ実際現場に行かないし、それだけでは今度は現場が拒否します。組合も一緒にならないと出来ない調査です。

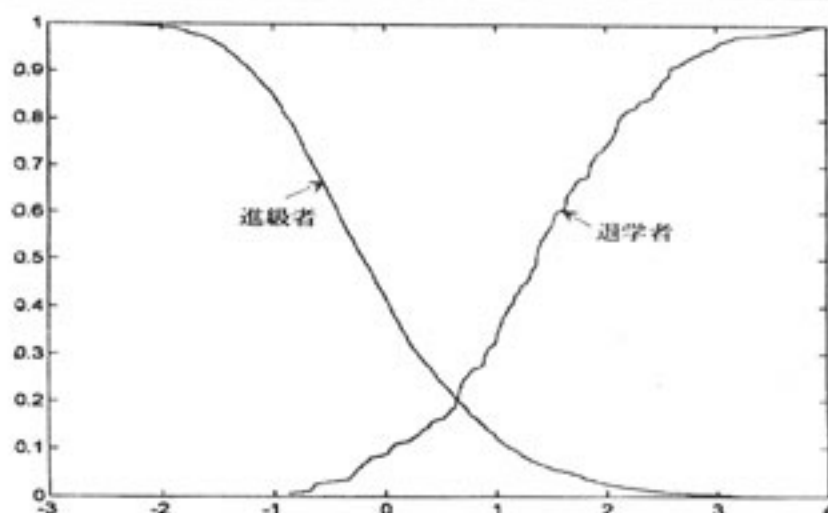
実際に高校生3000人近くに、今のような質問、100項目くらいの質問に答えてもらいました。これによって8割は識別できます。つまり入学して5月、6月くらいに調査をして、その年度の3月になって、退学しているか、していないかということをおよそ8割を当てられる尺度を作つて、得点を出すことができます。ただ、中退にも二通りあつて、入学式の翌日から来れなくなつてしまふ子もいるんですね。そうすると、こういう人はそもそも調査にもかかりませんので、これは良くわからない、多分引きこもりタイプでいいんじゃないでしょうか。

5月、6月あたりまで来ているのに、その後止めてしまふというのがどういう原因でそうなるかというところ、先行研究ではいじめや目標喪失と言われていたんですが、私たちが見つけたところでは、むしろ甘い考えとも言えますが、



つまり、こんな学校で勉強しなくても、自分には何か特別な才能があるんだというような、あまり根拠のない考え方とか、学校なんかいらぬ、学校なんか出なくても何とか生きていけるんだとか——私は根拠のない楽天主義と名付けましたが——そういう得点の高い生徒が辞めてしまう傾向があるようでした。

これなど実際やってみてわかったことです。でも言われてみれば、そうだとする人が結構多いですよ。それは当たり前だとかね。でも、そう言う人も前は違うことを考えていたんじゃないかな。それなら止めない理由は何かということを見てみると、あまり積極的な理由はなくて、例えば一番大きいのは、大学行くのに高校は出ないと困る。要するに通過点としてここを通過しないと困る、止めると損だから止めないことにしよう、というような感じですね。もう一つは、これも意外でしたが、親を裏切れないというのも結構あるんです。これやっぱ、親との関係がいいと他の条件が悪くても止めない、ともかく続くということがあるみたいです。ただ、どちらも非常に消極的な理由ですね。止める者は自信満々で止



計量心理学の具体的「成果」を1つだけご紹介しよう。このグラフの横軸は、本文で述べた100個ほどの項目に対する反応に、かなり複雑な重み付けをして合成してもとめた得点である。交わっている2本の線のうち「退学者」とあるのは、この調査が行われた学年末に退学していた生徒の得点を低い方から累積したもの（累積度数分布）であり、たとえば、退学者の中で横軸の得点が0点以下である生徒の割合は10%未満しかいないとか、2点以下の生徒の割合が80%近いことが読み取れる。「進学者」の方は、同じ得点を上位の方から累積したもの（逆方向からの累積度数分布）で、進級者で横軸の得点が0点以上の者が約40%いることがわかる。2つのグラフは横軸が0.8点付近で交わるが、縦軸の座標は0.2あたりである。つまり、退学者の80%はこの点より低く、進級者の80%はこの点より高いことがわかる。

まだ全員が在籍している高1の1学期中の調査によって、約1年後の状態が予測できるのは、単なる言葉による質問への答えから得られるものとしてはかなりのものだと言えるのではなからうか。既に退学した生徒を追いかけて、反応を進級者と比べればもっと大きな差になるが、それは回答者自身が、自分が退学したと言う事実を意識した上であれこれ原因を考えるからであって、ある意味では当然である。後ろ向きの回想ではなく、前向きの予測であることに意味がある。

ただし、退学者の数は全回答者の5%ほど（進級者は約2500人に対し、留年者は134人）であるから、実際には得点が0.8以下であっても進級している生徒のほうが多く、これを診断に使うには危険がある。ただこれは、発生率のあまり高くない病気の診断等を、医学的検査で行う場合でも同じことである。図は村上・杉江・石田（2002）より引用。
（村上）

私たちの役割の第一は、 中等教育にどうテコ入れしていくか……

めていく、残っている生徒には学校を続ける積極的理由がない。これは中等教育の、ある面では困った問題です。学力低下とかそういう話とも、おそらくつながってくるとは思います……。というように、計量心理学にもある程度現実と切り結ぶ面はあります。

この間、わたしの授業を工学部の学生さんが、結構何人か受講していて、最後に感想を聞いた時に、「こういう分野の話ははじめて聞いた、なかなか興味深かった」とか、これはお世辞かなんかわかりませんが、その一方で、「まったく雲をつかむような話で、こういうのは工学とは全然交わらない」というような感想もありました。

ともかく私の最初の話とつながってはいえ、見えないもの、形を成さないものに何とか形を与えていくというのが高校時代にほんやり描いていた目標だとすると、その頃思っていたのとはまったく違う形ですけれども、まあ目的を達成する方向にはなってきたのかなと

いう気もしないでもありません。お読みになられている方はどう判断されるでしょうか。

歴史のあるシカゴの鉄道

加藤 学生がインタビューしたときは、鉄道の話をされたようですよ。

村上 まあ、その話はいいです。

加藤 いいですか。

村上 あれはね、学生さん相手に言ったこと。またあとで……

まあ実は、子どもの頃から、電車は好きで、この間学会で、5日間程シカゴに行ったんですが、他の方がいらつしやるようなところへはほとんど行きませんでした。

シカゴの電車は有名でご存知の方もあると思いますが、ループという高架線があります。街中で、あんな地上を電車が走っている状態は普通ではないと思うのですけれども、あの市内の高架線は19世紀にもうできていたが、子どもの時から、写真を見たりして、どのようなところかわかってはいたん

ですけれど、ぜひ自分で行きたいと思っていました。そうしたら、本当に昔のままたって感じで、錆びた鉄の高架橋が道のど真ん中にあつて。駅は、まあ圓いと屋根みたいなものはあるんですが、粗末な階段を上って行くと、木でできたプラットホームがあり、あ、これだったという感じがした。シカゴはわりあい鉄道が発達しているところなので、他にも掘割の中を線路が通っているところとか見に行きました。

有名な美術館にもミシガン湖のクルーズにも行かないものだから、向こうにいた時も、他の人たちから、いったいお前何してるのって。

うちに帰ってきて、シカゴに何しに行ってきたのって、また家族に散々馬鹿にされました。しかし、自分にとってはこれで十分満足なんだから。シカゴは子どもの頃から行きたかったところで、その見たいところは全部見たから、これで十分だと言ったんだけどね。

本当のところは、そもそも学会での発表の準備がきちんとできていないものだから、向こうに行ってもまだ、ホテルで準備をしなくちゃいけない。他の人と観光地に行っている余裕がない。まあ、これが本当のところですよ。

教育発達科学研究科の役割

加藤 名古屋大学も、教育発達科学研究科も、今大きく変わってきていると思いますがそのあたりのお話をお願いします。

村上 学部は教育学部で、大学院は教育発達科学研究科という名前になっております。いくつか目標として掲げていく事があると思っていますが、まず一つはやはり、中等教育——つまり、中学と高校の教育——にどうテコ入れするかということだと思っています。

これは特に理系の先生方とお話をしていて感じるのですが、今の新入生の人たちのいわゆる学力が、なかなか大学教育として、先生がお考えになっている水準に達していない。これは大学がその最先端の学術を目指しているのに対して、中等教育の場合は非常に保守的というか、ある程度仕方がない面もあるにしても、その差が埋め



ようもないくらい広がってきたというように認識しています。

ただ学力低下をいう人たちも、ともすれば昔に戻せばいいという考えが非常に強いのではないのでしょうか。でも昔はですね、東京オリンピックの前後などを思い出してみれば、まだ追いつけ追い越せの時代で、何かを学ばせる場合にも、「これ自体は意味があるかどうか今のあなたにはわからんだろうけど、ここをしつかりやっておけば、そのうちきつといいことがあるよ」というようにすればよかった。我々などそういうのに引きずられて、あまり疑問も持たずにきました。目の前にニンジン

ぶらさげられて、ほんとは意味が分らない受験勉強などそれなりに一生懸命やったというようなことでですね。

今もまあそういう生徒はいますね。いますけれども、そうじゃない子も多くなった、それをはっきりと拒否するような子どもたちが増えてきてしまったわけです。さっきの高校中退の話にしても、私が根拠の無い楽天性といったのと割りに近い次元として反学校意識というのが。つまりさっき私が言った、学校を自分にとつて必要ないと思うようになったとか、もつと上手な教え方があるはずだとか、もつと役に立つことを

学びたいとか。そういうことをはつきり言う生徒が出てきています。つまり、今やっていることの意味が分からないことを強要することが非常に難しくなっています。

総合的学習というのが高校にまで広がって、今必修になっています。総合的学習が目指していたことは、受験勉強

的といえますか、あるいは普通の教科の出身に出てくるような手ごたえの無いものではなくて、自分で設定した問題を自分で解いてみる。その時に基礎・基本が大事だということに気がついてもらい、そうであれば、同じ事でももう少し意図的に、意欲的に、自分の関心から学ぶ事ができるようになるだろうということが目指されてい

たと思うのですね。

ところがどうも最近思うのは、その、教科教育のほうですね、従来の科目としての英語とか数学とか国語とか理科とかといった類のものが、せつかく起こった興味関心の受け皿としてはどうも十分ではないのではないかと。ということなので、教科そのものを組み替えていくと言うか、創っていくことが必要になっていくだろうと思えます。もちろん、これは名古屋大学だけの仕事ではありませんが、本学は幸いなことにキャンパス内に附属学校という非常にいいフィールドを持っているわけなので、そこへできる限り多くの全学の先生方にお出ましをいただきながら、あるいは、ご指導をいただきながら、既存の教科の組み換えというようなことをしていく必要があるのではないかと思います。

す。それがまず第一点です。

大学教育― 社会とのつながり十分でない

次はいわゆるキャリア教育と言われているものです。今年も生協さんの職場で、インターンシップをやらせていただいています。こうしたインターンシップとか、実際に職業についている人たちを毎回ゲストスピーカーに招いて講義をしてもらい、ディスカッションをする中から自分のキャリアを考えてもらうような授業も今年から始めています。

要するに、今度は大学教育の側が社会とのつながりという点で必ずしも十分ではないということですね。これもこれから教育学部として考えていかなければいけないところだと思っています。今のうちに正課の中でキャリアを学んでいく、こちらから言えば教えていくということも必要でしょうが、学生さんは、建前上は大学で学んだことを生かして社会に出ていくことになっていますが、現実には課外活動とか、バイトとか、そういったもののなかで自らを社会人として形成してきた部分が大きいというのも実態なわけで、特にこ

の課外活動の部分を大学教育の中にしっかり位置づけるということが必要ではないかと思ひます。

そのための理論というものもあり私の知る限りでは無いようだし、まあ、どうしても課外活動というのは正課の邪魔にならないようにやるものだという事にほとんどどまっています。大学として、十分な支援ができていないとは思いません。で、ご存知かと思いますが、今、うちの研究科は総合保健体育科学センターの体育科学部と統合の交渉をしているところです。体育の先生にきていただくというのは一つのチャンスになるだろうと思っています。そういう事も含めて課外活動の位置づけをやっていくと考えています。それとキャリアとの関わりというような事を、全学のリーダーシップをとって、やっていければと思っています。

総合大学からこそ 優秀な中等教育の教員を

もう一つ、本学の教員養成、いまどきの表現で言うところと教師教育、教師再教育といったところにも力を入れて行きたいと思っています。



原理的に言えばですね、うちの教員養成はしないんです。教育学部というのは、2種類ありまして、国立では旧七帝大と筑波と広島の教育学部は、教員養成を主目的としない教育学部。でも、教員養成はしません、教育の研究はするんです。僕が全学の教職課程委員長をやっていますから、教員免許をとろうとしている人たちの前で挨拶する機会が何回かあるのですが、今年からはつきり次のように言うことにしました。名古屋大学というところは決して教員養成を主目的とするところではない。そ

れで、今までは本学を卒業して中等教育の教員になるっていうことは、なんとなくはわき道といえますか、本来のキャリアとは違うというように捕らえる傾向が無かったとは言えない。しかし、そうではない。さつきから言っているようにやはり中等教育をどう改革していくかということが非常に重要になったときに、本学から中等教育の教員を出していくということは大変重要なことだ。事実、愛知県の高校教員の1割以上が名大出身なわけですから。しかも校長・教頭や、教育委員会で活躍している人も多い。そういう中でやはり君たちがたどろうとしているキャリアというのは、研究中心小学において非常に中心的な、メインのキャリアであると考えろと、だからともかく自信をもってやっていた方がいいんだ、と。

こう言うようになったんです。が、さりとて教育学部から非常に教員になる方が多いかといえ、今はそうではありません。しかし、実践家はよそで養成してもらってこっちは理論をやるんだって話でいいとは思いませんね。法科大学院ができる時に、こういう説明をしていた方があるんですよ。教育学部の人たちが現場で教えながら、教員を養成していく、それと同じ事を法律でもやりたい、法曹の育成とうことについてもやりたいんだと。これ聞いて非常に恥ずかしかったですね、そんなこと一部の人を除けばやらないんだから。

一同（笑）

村上 だから、これからは現場とつながりながら教育改革をしていくというスタンスをもつとはつきりさせないといけない。総合大学からこそ優秀な中等教育の教員を輩出しなければいけないし、附属学校とともにもっと明確な目的意識を持ってわれわれもかわっていかねばいけないということですね。

21世紀COEの獲得も

もちろん、研究科にはそれぞれの分野の専門に関して、国際水準の研究をしていく人たちが必要です。前回は成功しませんでした。が、できる限り近い将来、21世紀COEを一つは獲得したいと思っています。ただ、今までお話しした

事からお分かりのように、必ずしも教育の研究というものが国際的な最先端である事が望ましいかといえますと、我々が当然に社会から付託されている問題というのは、極めて現実的なものであり、かつ、日本の歴史とか文化とか実情というようなものに密接にかかわるものですから、世界の最先端というような理論とか方法というものがあつたとして、それがすぐに解決につながるかは考えにくい。そうすると、この部局、関係部局も含めて50人ぐらいの教員がいたとすると、そのうちの例えば3割ぐらいは国際的最先端で活躍していたとしても、残る人たちはむしろそういうインターナショナルな方向に対してドメスティックな仕事に踏みとどまってもらって、国民の負託に応えるような研究をしていただくことが必要だと思っています。

ドメスティックな仕事も大切

それは最先端じゃない、国際的

最先端でないものは研究ではなくて、そういう人間は教育をしるかというような意見もあります。それは違います。やはりドメスティックな研究は、インターナショナルな研究と同じ様な意味に重視されるべきだろうと思います。特に我々の分野では。

そういうことをきちんとやっていきまないと、例えば理学部のようなところだったら、私にはよく分かりませんが、何かすごい研究をやっているみたいだよというところと、まあ済んでいくというところがあると思います。一方、教育に関しては、もう大部分の人が、自分の経験してきている領域の中では既に一言言おもちなわけで、しかもその方の経験の範囲ではその方のおっしゃっている事は結構正しい場合が多いわけです。しかし、まあ何と言ってもその方の視野、経験の範囲でおっしゃっている事なわけで、当然そういう方向から抜け落ちていく部分はたくさんあるわけですから、プロとしてはもう少し全体を見た、理論なり

方法なりあるいは見解なりを出さなければいけないと思います。もちろん、それが普通の人が考えている事とんでもなくかけ離れていることは考えられないわけですから、そういう意味で、その常識の範囲を出ないかもしれないけれど、しかし、ほんとに実効性のある策を、実際に実行していくことです。

小さな部局ですべてのことがやれるわけではありませんが、その実現に移すための方策を考えていくことが、私たちに課せられている課題ではないかと思っております。

自分の研究の話をするよりだいぶ迫力あるでしょ。

一同（笑）

急がず実体験を豊富に

加藤 じゃあ、少し先に進めましょうか。特に、若い世代の方々へのアドバイスをお願いします。村上 はい。うちに来る人たちが力のある人たちが多いと思います

し、できる限り自分の可能性を限定してしまうのではなくて、いろいろな可能性に挑戦してもらいたいと、まずは平凡なお願いたいことです。それから、理系の最先端の部分ならいざ知らず、こういう分野を学ぶのに年齢とかは関わりが無いわけで、むしろどれだけ厚みのある手こたえのある経験をしてきたかということが、同じ授業を受け、同じ本を読んでも得られるものを大きく左右するということが、私もこれまで経験してびっくりするような事が多いわけです。という意味では、あまり急がないで、むしろ実体験を豊富にするような努力をしてもらおう。そういう意味では、学部を出ていきなり大学院に行く人、もちろんそういう人もいいんだけど、一度社会に出て、手応えのある仕事をしてから戻ってくるとか、そういう人たちが増えることを期待したいと思います。そういうことがちゃんと支援できるような世の中の仕組みというのが必要だろうと思います。だいたい誰でも大学を卒業すると勉強したくなるものなんです。残念ながらなかなかその受け皿が無いというのが現実です。

厚みと手応えのある経験が大きく左右。
急がず、実体験を豊富にする努力を。

いま、「現代的教育ニーズ支援

名フィル、チケットないのが残念。 生協は、もつと文化的な面での充実を。

プログラム」に応募しているところ

ですが、退職者、離職者のためのセミナーというのを始めたいと思っています。これはさっきのキャリア教育の一環で、つまりその年齢段階になつてもう一度キャリアの建て直しと言いますか、設計のやり直しが必要な方って結構多い。そういう中高年の人たちに授業に入ってきていただいています。今年は愛知県教委に、あちらのほうで呼びかけてもらって、県民モニターという方にくつかの授業に入ってもらって、——実は私の授業にも入っていただいて、これは非常に効果があったと思っています。

若い人たちに、やいやい言ってみても、なかなか学ぶ気になつてもらえないようなことがらが、経験を積んでいる人たちにとつては非常に意味のある事だと思つてもらえる。これにはほんとにそうなのか自信が無いところがありましたが、やっぱりわれわれもそれなりに価値がある事をやっているらしい。学生さんの評価を聞いたら

もう愕然としてしまう。

一同（笑）

村上 そうすると、私たちが一所懸命呼びかけようとしている人たちではなくて、そうでないところにニーズが実はあったということなんです。更に言うと、ただでもいいから大学のために働いてやろうという方々が結構いらつしやる。こういう時代、財政的にも苦しい時代ですから、せつかくそういう申し出をいただける方には、ぜひ、ご協力をいただきたいと思つています。そのあたりをなんとかシステマ的に、ボランティアみたいなものの、教育発達科学研究科応援ボランティアみたいなものが作れるといいと、最近考え始めたところ

です。皆川 私が前に所属していた研究室で、会社を定年で辞められた方が、M1で入ってこられたんです。60歳前後の人ですけど、非常にまじめで、ノートをきちんととられていて、若い現役の学生たちが刺激を受けています。学生のやる気が変わってきたと、先生も

非常に喜んでおられました。

村上 そうだと思います。だからそういう人たちはそういう人たちで分けてということではなくて、うまく交流ができる工夫をしていく必要があります。何でもかんでも同じでいいというわけでも無いし、その方は理系ですか？

皆川 そうです、工学部です。

村上 それは心強いですね。

皆川 私も学生らしくない人を見かけて、どういう方なのかなあと思っていたんです。共同研究でもやっている人なのかな？と。学生さんだと聞いてびっくりしました。

村上 社会人入学とか3年次編入、いわゆる学士入学とかいわれることは、特に理系ではなかなか成功しにくいと言われています。私たちが3年次編入を始めた時、こんなリソースがあったのかとびっくりしたくらいです。理系でもそういうケースがあるのなら本当に心強いことだと思います。今井 教育学部付属学校は、名古屋大学附属になると聞いたことが

ありますが……

村上 これは前の松尾総長時代に、一応非公式ですけど全学で認めて頂いたことです。ただ、少し状況が変わってきたところもありますし、一番ふさわしい設置形態を目指してもう一度考えたいと思います。教育発達科学研究科が最も附属学校に近い部局として支援をするというか、フィールドとして研究をしていく、あるいは全学の窓口になるといふようなことがどうしても必要だと思います。小さい組織ですし、いきなり全学附属という形態がいいのか、あるいは本研究科附属がいいのかということはどうも少し検討したいと思っています。

今井 名古屋大学の先生方が、高校に出席されて授業をされる、いわゆる「出席授業」というのが、かなり増えているそうですね。

村上 これは去年私も関わりましたが、愛知県の教育特区というようなところで考えておられることと似ているなあと感じます。結局出席をして、それから大学の研究室のほうにも入ってきてもらいたい。この場合はエリートと言いますか、そういう逸材をどこから発見できないかということがどこかにあったような気がします。

ただし、さつき申し上げた意味で、つまり中等教育と高等教育が離れてしまつて、その穴をどう埋めるか。入試を課して、それを超えてきた受験生だけを入れていくというやり方で、今まではそれなりに人材が発見できていたんだと思います。そもそもの数も多かったという事もあるでしょう。今のようになり少子化になつてもまったく同じやり方をしている。しかも、昔と同じ意味での受験勉強的な学びというのが意味を持たなくなつてしまつた段階で、非常に貴重な人材を逃がしているといえますか、すぐれた人材を高等教育から遠ざけている可能性は大いにあると思います。ですから、なんとかそういう人たちに戻つてきてもらう、もちろん、それはある程度時間が経つてからでもいいとは思いますが。ともかくそういう努力をしないといけないと思います。

生協、文化的な面での充実を

村上 はい、お世話になつております。

かつて生協の職員もいろいろな



専門知識を持つてほしいといわれていました。いまは十分にお持ちの方が増えてきたと思います。洋書の品揃えも理系に関してはすごいんですね。さきほど某書店さんが来られましたが、みなさんが、なかなかここにはかなわないとおっしゃつていらっしゃるレベルが高いそうです。

生協さんに注文があるとすれば、もう少し文化的な面での充実をお願いしたいですね。かつて売つていた名フィルのチケットは、いまは売つていらつしやらないです。あつたころは結構、私行つていたんですけど、ここで買えなくなつたらあまり行かなくなつた。そのあたりですかね、不満があるとすれば、店舗が二つに分かれていてのは、まああれはあれでよろしいんではないか、たぶん、小さいことですけど、ATMが復活できませんかね。

加藤 北部厚生会館の玄関にあつたものでね。

村上 そう北部にあつたもの。

今井 銀行が撤退しましたね。

南部近くにATMがほしいと。

村上 ええ、ほしいですね。

今井 一度、財務部の方が、U.F.J.銀行の支店の方と一緒に見に来られたはずなんです。それから進んでないのです。

村上 やつぱりこのキャンパス内は、銀行にとつてはあまり効率が良くないのでしようね。

今井 そうでしようね、特に夏は利用者が少ないでしようし。

村上 生協さんもいろいろ新しいアイデアとかマーケティングとかされているようにお見受けします。たとえば、就職支援を含めた学生支援、私立大学のエクステンション・センターが果たしているような役割には今後期待したいと思つています。あと、まだ行つたことがないIB電子情報館のカフェに明日行くことになっていきます。

今井 そうですか。ありがとうございます。

村上 明日本部の委員会が終わつた後に、某理事に連れて行つてもらえることになるつてます。

一同 (笑)

加藤 いろいろ楽しいお話が多いのですが、お忙しそうですね、終わりということで、お忙しい中ありがとうございます。

・・・・・

(インタビュは8月2日、聞き手は名大生協。今井専務理事、箕浦常務理事(技術センター)、皆川常任理事(工)、加藤理事(会室長)文章の責任は「かけはし」編集委員会にあります。見出しは編集委員会がつけました。)

省農薬で安心安全な めいきん生協の提携産地 Fエース（生協）リンゴ の産地見学

おいしくて安心・安全な松川Fエースリンゴの産地見学を企画しました。晩秋の麗らかな一日、お子様とご一緒に参加してみませんか。美味しいもぎたてのリンゴも購入できます。りんごの産地見学のあと「伊那谷道中（江戸時代の飯田の町並みを再現したテーマパーク）」または併設の「伊那谷温泉・満願成就の湯」による予定です。

行き先：松川Fエースリンゴ園・奥村農園
(長野県下伊那郡松川町元大島4763) (TEL.0265-36-2677)

日 程：2004年11月23日（祝）

集 合：午前9時。名古屋大学博物館前集合

帰着時間：午後6時（予定）

定 員：12人（申し込み順）

参加費：大人 1000円、小学生 500円

自家用車で参加の場合は無料

申込先：コープクイズの回答用紙のページにあります。

<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>

または、下記問い合わせ先のメールアドレスでも可。

問い合わせ先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

企 画：名大生協教職員委員会



環境特集 環境講演会とフィールドワーク
環境講演会

風力発電の現状と展望 ー将来、水力発電量に迫れるか！？ー

いま太陽光発電、風力発電、燃料電池など新しいクリーンなエネルギーに注目が集まっています。その中で、風力発電についてお話をお聴きし、費用対効果や将来の展望を語っていただきます。短い時間ですが、そのあとIBカフェにて軽食・飲み物で感想交流を行います。皆様の積極的な参加を呼びかけます。

日 時：2004年10月28日（木）18：00～19：50

会 場：IB電子情報館中棟1階011講義室（IBカフェの隣）

講 師：工学研究科機械理工学専攻 教授 菊山 功嗣 先生

感想交流費：300円（IBカフェにて）

フィールドワーク

久居榊原風力発電施設の見学

青山高原の緑峰・笠取山(842m)には久居市所有の風車が4基、榊原青山ウインドファームが所有する風車が20基設置されています。ここは年間を通じて平均風速が7.5m/s以上で特別高圧線に隣接し、また、大型の風力発電装置を陸送可能な県道が走っていることなど風力発電にもっとも適した場所です。ここを見学し、秋の紅葉を楽しみつつ、榊原温泉の男女10種類の健康温浴ができる「湯の瀬」に浸かってのんびりし、秋の行楽も満喫できます。

是非ご家族、お友達とご参加を！

日 時：2004年11月3日（水）祝日 9：00～16：00

場 所：名古屋大学東側受付駐車場集合、青山高原笠取山頂上へ

参加費：大人1,000円、小学生以下500円

定 員：15名（定員になり次第締め切ります）

持ち物：お弁当、おやつ、タオル、傘など

※お弁当などは途中購入も可能です

お問い合わせ・申し込みはクイズ解答用紙または、kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jpまでお申し込みください。

Educational Coop をめざして 全国教職員セミナー 2004

(8月24-25日 大阪教育大)

8年ぶりの全国セミナー

全国大学生協連、全国教職員委員会が主催する「全国教職員セミナー2004」が、8月24・25日、大阪柏原市の大阪教育大学で開かれ、名大生協から6人が参加しました。

前回のセミナーから8年ぶりに開かれた今回の全国セミナーのテーマは、「Educational Coop をめざして―変化する大学と学生、革



学生も入ってくる時代になり(すでにその傾向は強まっている)。そのときに、Educational Coop である生協の教職員活動として何が出来るか、何をしたらよいかという議論がありました。

生協が、学生の自分さがし、自らの価値に目覚めて社会に果立っていく手助けをしようという議論は、興味深い討論が続きました。

5つの分科会

2日目は次の5つの分科会が開かれました。

- A 教職員の生協加入と活動参加の促進
- B 大学生協の教育支援
- C 平和を考え、歴史認識を深める活動
- D 大学生協が取り組む環境問題
- E 大学生協が進める「食育」

この5つのテーマが、今後の全国の教職員活動の柱となっていくのではないか、と思います。

(文＝柴田)

新する生協―です。

一日目の全体集会では、パネルディスカッション『大学全入時代』の大学・学生を語る」が開かれました。「大学全入時代」とは、最近マスコミ等で広く使われている言葉で、大学進学希望者が全員入学できる時代という意味で、減少し続けている18歳人口と大学入学定員の関係から2007年度から始まるとされています。

大学全入時代では、大学はかつてのようにエリート養成の場だけではなく、勉学への意欲の乏しい

全国教職員セミナーの分科会報告

分科会A「教職員の生協加入と活動参加の促進」

皆川清

司会：吉田亮三（愛媛大）

報告1「北陸地域センター教職員委員会の結成から『参加』のあり方を考える」田口直樹（金沢大）

富山大、金沢大、福井大の教職員16名が集まって02年度より3つの目的を決め活動を開始。03年度、04年度は「環境」をテーマに1日目は「エコツアー」夜は交流会、2日目の正午まで教職員委員会を行うというやり方で徐々に定着してきている。

報告2「寄附講座『キャンパスライフ・食と健康』をコーディネートして」名和又介（同志社大）、西川幸徳（立命館大）
寄附講座：大学生協京滋・奈良地域センター
提供先：同志社大学経済学部
地域センター5周年記念事業として、いろいろなところから

の協力で講師を確保

場所：京都キャンパスプラザ（京都の大学間共同組織・単位互換など、京都駅東へ5分）
日時：8月3日～7日（毎日3コマ、計15コマ）

受講生：登録170名前後（同志社40、同女大10、立命館77、京都産業15、京都学園大10、大阪医大10、京都女子大4、早稲田2、その他数名）
出席者：120名前後（男性50名、女性70名）
社会人の登録40名、出席10名前後（年齢60・70代、職業：無職）

報告3「新入教職員への生協加入と利用推進活動の成果」西尾正樹（早稲田大）
2004年度新任専任教員142名（加入78名）54・9%、専任教員8名（加入8名）100%。大学の辞令式で常任理事教員から説明を行う（約10分）。案内セット

①加入・利用案内（加入申込書）、②新歓企画案内、③ソフトウェアカタログ集、④機関紙れいん

ぼう、⑤名刺作成プレゼント案内（教員のみ）、⑥CDプレゼント案内（職員のみ）
「大学コミュニティに不可欠な生協」の考え方を知らせる。「校費利用・奨学金」の取り組みを知らせる。大学には専門の先生方がたくさんいる優位性を発揮して、いろいろな場面で協力を願う。学生・教職員の文化・教育の啓蒙に役買ってもら

分科会B「大学生協の教育支援」

星野香

座長：野田三喜男（愛知教育大学）

報告1「カレッジスタディ入門講座」を開設して「富田宏治（関西学院大）」

大学に入学した新入生に対する学びの入門講座が開発された背景（大学全入時代）と、その内容について報告された。以下ホームページからその内容の概要を紹介する。

「カレッジスタディ入門講座」

自分を知り、社会を知り

「論理的思考」と「自己表現」の主体が私（＝自己）です。自己を分析する過程では論理的な思考が有効な武器となり、他に向けて発信するには、自己表現が必要となります。自分を知るためには、自分を批判的に見つめ、他者（＝社会）に興味を持つことが大切になります。

論理を磨く

自分と他者（社会）を異く異議の民衆を見つけることが、論理を磨くことです。論理的にものをとらえることは、ものとの、人との、ものとの間の正しい関係を把握できる力を指します。

自己表現力を磨く

自分の考えや主張などは、間違いない、簡単に、また通やかに伝わるなければ意味がありません。そうするためには、言葉を論理的に使う必要があります。磨かれた言葉は、相手の心を打ち、行動を促す力をもっています。

は、楽しみながら「大学を知り、自分自身を知る」ことができる講座です。DVD教材「ようこそ大学へ、ようこそ自由な空間へ」では、大学生活を送る心構えや、大学教育で得られるものなど、7つのテーマが語られます。「講義ノート」では、実際に「ワーク」に取り組んだあと「解説」を読むことのくり返しで、考えを深めていきます。さらに全8回の論文文（無料添削付き）で、論理的思考力と表現力を養います。新入生はもちろん、「大学とは何か、自分自身とは何か」の答えを見つけた、すべての人のため

の教材がそろっています。

なおDVD教材などの入手にはホームページ <http://www.queen-univ.coop/index.htm> から可能である。

私は名古屋大学の基礎セミナーに通じるものかなと思った。

報告2「ある工業大学生協が行う数学の補習教育」吉田旺弘(東北工業大)

2002年の新生から、学習相談会(のちに「数学勉強会」、「大学数学入門セミナー」と改称)で高校レベルの数学復習と微積分、線形代数を行った。講師は東北大学の大学院生で、無料の学習塾と言える。2003年秋から準備を行い、2004年には上級生の Study Attendant によるグループ学習サポート形式に改め、「数学を学ぶ会」として進行中である。これは学習を通しての仲間づくりや、Attention を含めて参加者の成長を目指したものであるが、まだ実験段階と報告された。

自主ゼミを生協が取り持つて

いるといった感じを持った。

報告3「東海における『読書マラソン』活動の成果と課題」布施光弘(中京大)

読書をめぐる現状を分析し、読書の習慣をつけるための工夫の報告である。大学一年生のレベルが小学六年であることの紹介、どうしたら習慣と出来るかの例、読書マラソンによる実践の紹介があった。マスコミでの紹介(読売・中日、NHK総合)がその成果を物語っていると感じた。

書籍コーナーには少なくとも月一回は行くが、自分のところで実践されているのか否か、実は知らないし、いまだにそれを確認していない自分を発見した。

分科会C「平和を考へ、歴史認識を深める活動」

柴田敏之

座長：井上忠也(明治薬科大)
司会：橋本修輔(宮崎大)
報告1「ピースナウ活動と学生・教職員」中平朗美(全国学生委員)

ピースナウ担当)

ピースナウヒロシマ・ナガサキ・オキナワの活動概要について。報告の中で、PN(ピースナウ)ヒロシマは、ヒロシマの原爆について学ぶという目的ではなく、原爆が落とされた広島で、平和のこと(歴史からイラク問題まで)を語り合おうというものであるという報告だった。ほかも同じ。

報告2「身近にあるものから戦争を知ろう」ピースナウ北甲の取り組み」入江郁美(宇都宮大)

北関東甲信越地域センターのPNの活動報告。1、2回は長野市の松代大本営の見学。3回は新潟刈羽柏崎原発見学。参加者は40〜60人。1泊2日の日程で。

報告3「アジア諸国の歴史を知り、戦争と平和を考へる」蘇博徳(京大留学生)

中国人留学生として、中国の歴史教育の概要について。日中戦争は敗者の立場から記述。日本は侵略を招いたのは、国力が

弱かったこと、国民が分裂していたこと、と教えられた。

報告4「朝鮮半島への眼差しから読む歴史認識の問題」高吉嬉(山形大)

韓国人教員として、気になっている日本人の韓国への見方について。南北分断について、日本人は、自らにも責任があるという自覚があるかと問題提起。

討論では、憲法9条について考える「しゃべり場」(島根大)、「化石山と日中不戦の誓いの碑を訪ねて」(名古屋大)、PNへの参加、韓国の歴史を学ぶ旅、シンガポールの戦跡めぐりに参加した体験(東京薬科大)などの発言があった。

教職員の討論を聞いていた中平全国学生委員は、学生は、歴史をきちんと学べという議論に違和感を感じる。学生の関心は、過去の歴史ではなくやはり現実の世界に起こっていることと発言。この問題については、座長のまとめで、今後、学生委員会と教職員委員会が率直な議論をして深

めていこう、と発言があった。

途中司会者が、生協がなぜ平和の活動をすすめるのか、という問題提起をしたがあまりかみあった議論にはならなかった。開会前に担当者間で議論に参加したときには、平和の活動参加は、政治的なことではなく、誰でも参加すべきこと。生協だからではなく、生協も参加することではないか、という議論があった。

分科会D「大学生協が取り組み環境問題」

箕浦昌之

運営：全国教職員委員会「キャンパス環境の総合的政策を提起するプロジェクト」

司会：山崎尚（和歌山県立医科大学）

報告1「飲料自販機から見える環境問題」大西信（NPO法人環境文明21研究員）

年間40万台の飲料自販機が出荷され廃棄されている。鉄、非鉄金属の部分が多くの重量的には75〜80%はリサイクルされている。飲料自販機メーカーは景

観を破壊しないようにと地域に溶け込んだ環境色を使用し、共同性を目指したモデルを考えるようになってきた。

報告2「理事長と専務で取り組んだキャンパス保全活動」清水文清（富山大学）

紙デポジットを紙コップと自家製井で取り入れ、紙コップデポジットでは70%、自家製井デポジットでは60%回収されるようになった。クリーンキャンパス大作戦では月2回生協と業者で実施し、ペットボトル・缶・ピンの落ちていない大学になってきた。

報告3「生協を通じて環境意識を高めるために」中村修（長崎大、NPO法人地域循環研究所）

ISO4000は初め宣伝効果のために取得している企業もあったが今となつては宣伝効果はなく継続させていくことを考えるあまり意味がない。生協独自のISOを新たに作成して取り組んだ方がよい。環境問題はボランティア要素が強く中心

に行ってきた人がいなくなると終わってしまうような運動ではダメであり、事業として展開しなくてはいけない。たとえば、大学に対してエネルギー削減プログラムを提案し、その削減された半額をいただき、いただいたお金を学生の組織に還元しそのチェック体制などに利用するなどの事業として行えば継続可能である。

分科会E「大学生協が進める『食育』」

池田典典

運営：全国教職員委員会「『食育』支援プロジェクト」

司会：玉井康之（北海道教育大）

問題提起：『食育』の課題とは？板倉隆夫（鹿児島大）

報告1「学生の食生活と健康の実態から見た『食育』の課題と生協の役割」菊池和美（酪農学園大）、室田恵（北海道地域センター）

報告2「地域センターが進める多彩な食生活改善活動」金子秀美（神戸事業連合）

報告3「新入学生との朝食会」

を通じて『食育』の実践」内野隆二（鳥取大）

議論の中心は、朝食についてであった。大半の発言者が、朝食を取らない、取れない者についての発言であり、同時に朝食の増加についての発言も目立った。気になった点は

- ・朝食セツト200円は高い。
- ・学生の1日の食費は900円以下だが、お菓子の分は減らさない。

- ・朝食無料のイベントをしたら、その時だけ大勢が食べに来た。

- ・1日1000円上限のカードを作ったところ、1品増やす学生が増えた。また、大盛りご飯を食べる学生も増えた。

- ・「外で食べるなら金をかけろ」と発言したら、不思議なもので見るような顔をされた。

この中で興味深いのは、1000円上限のカードである。生協の食事は単品を足していくと意外と高く感じるが、予め決めた限度額内という安心感が、1品追加する余裕を生んでいるように思われる。

教職員委員会合宿行

秋の委員会企画に乞期待

去る、9月4日(土)から5日(日)にかけて、名大生協教職員委員会は西浦温泉の西浦グランドホテルにて下期方針合宿を行った。毎年2回、2月と8月(または9月)に下期と上期の活動総括と方針作りの合宿を恒例にしている。今年の夏は記録的な猛暑で、名古屋市内で最高気温30度を超える真夏日は83日と観測史上最多となった。また、台風の上陸数も今までに7個と過去最高の年となった。今年の天候を象徴するように合宿は猛暑にはじまり豪雨に終わった。

9月4日午前8時30分に大学に集合したが、資料作成の遅れから出発は9時過ぎてしまった。名古屋ICから東名高速に入り音羽蒲郡ICで下り、三河湾オーレンジロードを通り蒲郡市を抜けて西浦温泉に向かう国道247号線に入ったところで大渋滞に巻き込まれてしまった。しばらく渋滞を進むと右手に大きなシヨッピ

ングモールが見えてきた。1日にオープンしたばかりのカインズホーム蒲郡店である。今日はオープン後、はじめての土曜日であり家族連れの買い物客が大挙押し寄せたのである。もう30分早く出ていればと後悔先にたらずである。結局、会場に到着したのは10時30分をまわってしまった。

西浦グランドホテルは改装工事中で屋上での展望露天風呂増設工事の音が真下の我々の部屋までひっきりなしに会議を妨げんばかりに響かせていた。

1日半の合宿は5日13時に終了し、帰宅途中の蒲郡市内で遅い昼食をすませて、音羽蒲郡ICから東名高速に入った。名古屋に近づくにつれ雨が降り出した。名大にたどり着いた15時30分にはバケツをひっくり返したような雨であった。瑞穂区では床上浸水になった所も出るほどの局地的な豪雨であった。

教職員委員会の下期活動方針 組織活動

- 加入・増資キャンペーン
生協強化月間(10月1日～12月3日)にキャンペーンを実施し、加入および基本出資金(2万円)まで増資された方には秋の委員会企画半額ご優待と粗品を進呈。
- 総代・組合員懇談会

- 秋の委員会企画案内、生協店舗の取り組み紹介、法人化後の生協のあり方、生協に対する意見などを交流します。(10月13日夕、15日昼予定)
- 利用者懇談会

- 各建物毎で開催できるように準備します。開催希望がありましたらご連絡下さい。
- 機関紙活動

- かけはしを奇数月に発行し、研究科長インタビューを継続して掲載します。生協からの情報と組合員の交流・情報誌となるよう努めます。

こいっかるチャーターセンター企画

- 音としゃべりの金曜サロン「クラシカルなタペ：トリオ・ダッシュ・アカデミカ」(12月3日)

- 歌声喫茶(未定)

- 文化講演会(検討課題)

平和・環境活動

- 平和学習会(未定)
- 「化石山」と日中不再戦の誓いの碑を訪ねて(9月18日)
- 平和憲章制定18周年記念企画・パネルディスカッション「国立大学の法人化その後」(2月4日)

- 環境講演会「風力発電の現状と展望」(10月28日)

- フィールドワーク「久居榊原風力発電施設の見学」(11月3日)

生協まつり(12月7日～10日)

- リング産直販売(7日)
- 献血(8・9日)
- ビデオ上映会「ラスト・サムライ」(8日)
- 赤ちようちゃん(9日 or 10日)

工場・産地見学

- COOPりんごの産地見学(11月23日)

地域センター・全国との連帯活動

- 東海地域センター教職員活動交流セミナー(11月23日)
- と多彩な企画を開催しますので、ご期待下さい。

秋の生協強化月間（10月～12月）

生協への加入・増資運動実施中!!

新しい総合店舗実現のために生協への 加入と増資をお願いいたします!!

理系地区に本格的な総合店舗を実現するため、加入と増資を呼びかけます。

現在学生の加入率は100%弱、大学院生約70%に対して教職員はおよそ55%にとどまっています。これからも、学生だけでなく教職員・院生により利用しやすいお店作りに邁進していきます。新規に加入された方と基準出資額である2万円（5口）まで増資された方に教職員委員会企画の行事に半額で優待します。

また、大学で出された紙ゴミで作られ、学内で使われているトイレットペーパーを進呈。企画としては、環境講演会とフィールドワーク（10/28, 11/3）、省農業で安心・安全なFエース（生協）リンゴの産地見学（11/23）、第17回音としゃべりの金曜サロン（食事をしながらのコンサート、12/3）などを予定しています。今回の出演者は、オーボエ、ファゴット、クラリネットによる木管3重奏のトリオ・ダッシュ・アカデミカにお願いする予定です。クラシックを中心に一部ポピュラーな曲も演奏していただき、楽しいコンサートになると思います。ご期待ください。

この機会に是非とも加入と増資をお願いし、生協のご利用をお願いいたします。

新しいお店や新しい

桂キャンパスに驚きと納得

京都大学教職員との交流会開催される（8/25～26）

8月24日から8年ぶりに全国教職員セミナーが大阪教育大で開催された。翌25日セミナー終了後16時に京都大学に移動し、リユニアルされた時計台地下のお店や西部地区の「ルネ」、リサイクル（リユース）ショップなどの新しいお店を見学できた。営業時間も長く町の中心にある大学だと実感した。交流会は自己評価表の提出や人事制度に関する職員アンケートの実施（京大）、看護士手当、非常勤講師手当、職員厚生経費の問題（名大）など大学と生協の現状を話し合い、厳しい状況ながらも頑張っていること等楽しく交流できた。

26日には朝から工学研究科と情報学研究科が移転する洛西に位置する桂キャンパスを隈なく見学できた。まだ一部（化学系、電気系）しか移設していないが立派だった。特に、全建物の事務室、研究室の水光熱費、鍵の施錠、職員の入退室がすべて集中管理されている総合環境管理センター・エネルギーマネジメントセンターを見学でき、このような最新設備を導入されているのには驚いた。水光熱費の経費削減には一役も二役も買うことが予想される。環境も申し分ないところだった。交通機関も移転が進めば充実してくるとのこと。

名古屋大学でも新しい建物を中心に環境管理とエネルギーの総合マネジメントをやっているといかないといけないのではないかなと思う。他の大学も見習って見学に行くべきだと思つた。ただし、職員、学生の個人名まで特定される入退室まで管理されるのだろうか。

25日のみ事務職員総代の方に参加を依頼する予定だったが、できなくて残念だった。東大の教職員も1名参加された。

快晴の御在所岳ハイキング

4月29日の報告

晴天の朝

一昨日の暴風雨がうそのように晴れあがった快晴の朝、東山と鶴舞の二箇所に午前7時に集合し、2台のワゴン車にそれぞれ7人づつ乗り込む。1組2人は、自宅から直接マイカーで現地向かう。こういふときは、携帯電話が便利である。「全員集合、出発します。」心配になったら現在位置を確認しあう。夫婦2組、女性8人、男性4人、うち中国からの留学生1名を含む16人の参加者で出発。

武平峠

三重県と滋賀県の県境にある峠は、鈴鹿スカイラインの開通で御在所岳や鎌、雨乞への登山基地になりつつある。2台のワゴンは四日市インターで合流し、武平峠へは、ほぼ予定の8時35分に到着。荷物をまとめ、靴を履き、参加者紹介と簡単な挨拶、軽

い運動の後50分に出発する。周囲の灌木は、ようやく芽吹いたばかりで、春まだ浅いが、今日の陽射しは初夏を思わせる。しかし、稜線のコースなので登り始めは風が強い。コース中、もっとも難関な岩場を通過したガレ場で休憩する(9時35分〜45分)。

休憩は疲れを回復させ、緊張を和らげる役割があるので、一時間歩くと10分程度の休憩は、おしゃべりなどの交流などにも重要であります。

期待のアカヤシオ無念

期待していたアカヤシオは例年より早く、名残の花びらが点在するのみで今年の暖冬を物語っていた。その代わりだろうかハルリンドウ(タテヤマリンドウ)の群生が見事だ。御在所岳の山頂へは、予定より一時間近く早い10時15分に到着し、写真やトイレ、早めの昼食など35分

まで休憩する。出発しようとする事故渋滞で遅れていたM夫妻が登ってきた。携帯で連絡を取りあっていたがこれほど早く到着するとは、思ってもいなかった。

山頂を後に国見岳へ

委員会メンバーの1名は、最初から登山をあきらめて山麓で待機することになっていた。15名全員が国見岳に向かう。御在所岳山頂駅は陽気に誘われた大勢の観光客がロープウェイから降りてくる。行楽客に混じって登山客もかなり登っている。御在所岳の山頂部分は、ロープウェイが架かってからは観光地化が進んでいるので、登山者には不人気である。人ごみを掻き分けるようにして、山頂部分を横切って、国見岳に向かう。南北に連なる鈴鹿山脈の北側には、目指す国見の向こうに釈迦、竜、藤原、御池の峰々が天に向かっている。いったん下降し、国見峠に出る。そこは右から裏道ルートへの登山道をあわせ、左に愛知川へ下降する四差路になっ

ている。国見岳へは道なりに再び北にまっすぐ登る。かなりの急登であるが、最近、岩を階段状に積み上げ整備してある。

国見岳山頂

15分ほどの急登を辛抱すると花崗岩の風化した岩場に取り付く。鎖に助けられてそのまま直登してもよいが左手の灌木帯に入り込んでよい。道はこちらのほうが安全でたやすいコースだ。再び灌木帯に入るとなだらかな山頂部分に到着だ。岩で自然にできた石門を左手に見て緩やかに右側に回りこむと山頂に11時35分到着する。大きな岩が数個、重なり合って、2〜3人がようやく登れる。灌木に囲まれ、15人が弁当を広げるには狭いので、さきほど通過してきた花崗岩の岩場に戻り、11時53分からその広場で昼食にする。2時間ほどの行程だが気温が高く、その分消耗も激しい。昼食はそれだけおいしいというものだ。

御在所岳から武平峠へ

12時40分国見岳を後に再び国

見峠に下り、御在所岳に登り返す。13時15分カモシカ園の前で10分間のトイレ休憩。快晴の陽射しでハルリンドウがいつそう多く咲き競う道を武平峠に下る。14時35分、約束を5分過ぎて峠の駐車場に到着。10000円の会費を徴収し、そうそうに湯ノ山温泉グリーンホテルに急ぐ。

湯ノ山温泉に入浴

武平峠に向かうスカイラインの入り口にこのホテルはあって、テニス合宿やさまざまな企画、イベントでの宿泊が可能でグレードも結構高い。その割りに温泉も650円と割安なのがある。昼食コースもあり名古屋からの小旅行にも向いている。3時から4時までの1時間の入浴タイムは、晴天での山旅の汗を流し、一日の疲れを癒すには最適である。透明で肌につくつるの泉質、岩組の広い露天風呂、運転手には悪いが湯上りのいっぱいのおビールはまた格別である。午後5時20分名大に到着し、解散する。
(文責：中條保)

教職員委員会活動日誌（2004年7～9月）

月 日	事 項	場 所
7月 1日(木)	新役員学習会	フレンドリィ南部
3日(土)	Peace Now!(三重大生協)	三重大学
7日(水)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
8日(木)	7月度常任理事会	ゆ〜どん
10日(土)	全国委員会	東京・杉並
15日(木)	平和憲章委員会	名大職組書記局
20日(火)	7月度第2回教職員委員会	IBカフェ
22日(木)	7月度理事会	フレンドリィ南部
23日(金)	北部改装プロジェクト	ゆ〜どん
29日(木)	役員報酬検討委員会	や〜どん
8月 2日(月)	村上隆教育発達科学研究科長インタビュー	教育発達科学研究科長室
3日(火)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
5日(木)	8月度常任理事会	ゆ〜どん
9日(月)	職員全員集会／8月度第1回教職員委員会	フレンドリィ南部／IBカフェ
23日(月)	8月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
24日・25日	全国教職員セミナー	大阪教育大学
25日・26日	京大生協施設見学と京大教職員委員会との交流	京都大学
9月 2日(木)	平和憲章委員会	名大職組書記局
4日・5日	教職員委員会合宿	西浦温泉
13日(月)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
14日(火)	9月度第1回教職員委員会	理系中華食堂
18日(土)	化石山と日中不再戦の誓い	瑞浪市
22日(水)	9月度常任理事会	ゆ〜どん
25日(土)	地域センター理事会／東海会館披露の会	東海会館／東海会館
27日(月)	9月度第2回教職員委員会	IBカフェ
30日(木)	下期全員集会	フレンドリィ南部

「化石山」と日中不再戦の誓いの碑を訪ねて9月18日

中国人殉難者を偲いで

9月18日(土)に、教職員委員会の主催で行った「化石山」と日中不再戦の誓いの碑を訪ねての企画には、6名の教職員と家族、2人の中国人留学生が参加した。10時40分、瑞浪市民公園内化石博物館の駐車場に到着するなり雨がぱらついてきた。戦争遺跡を保存する瑞浪の会の加藤明さんの案内で化石山(通称)の山腹に掘られた地下壕(地下軍需工場)に向かう。入口でこの地下壕は昭和19年から20年にかけて強制連行してきた朝鮮人

と中国人を使って掘らせたもので、1日2交代で24時間働かせたこと、与えられる食事は小麦粉とこめかで出来た粗末なパンを1日に3個だけ、重労働と栄養失調により39名もの中国人労働者がこの地でなくなつたことなどの話しを聞いた。その後懐中電灯を持って地下壕に入る。この日は瑞浪市も共同で慰霊祭を行う関係で瑞浪市の職員による地下壕見学ができる唯一の日であった。加藤さんの同行によつて一般の見学者では見るこ

との出来ない奥の壕にも入ることが出来た。壕内ではつるはしで叩いた跡やダイナマイトを差し込むために鉄パイプで叩いて掘つた穴などを紹介しながら地下壕がどのようにして掘られたか、その大変さをまざまざと見せられた気がする。地下壕の見学後、当時の工事資材置き場として利用されていた化石博物館の下にある化石の地下壕(こちらはいつでも見ることが出来る)入口の看板では誰が強制連行したのか、誰が軍需工場を造ろうとしたかという主語のない看板に怒りを示し、壕内部も案内していただいた。こちらは照明も配置され床はコンクリートで歩きやすい。壕内は海が隆起して出来た山であることを物語るように無数の貝の化石を見ることが出来る。こちらの壕ではカンテラを下げるためのさびた鉄の金具やダイナマイトの不発穴なども見ることが出来た。見学後、ちようどお昼になったので加藤さんと一緒に昼食を取った。加藤さんは朝鮮や中国などにも調

査活動に出られていてその話しや戦後のアメリカによる日本占領政策の話など熱く語られた。食後は化石博物館を見学し、中国人殉難者瑞浪市供養会主催の中国人殉難者慰霊祭に参列した。瑞浪市長、中国大使館員、瑞浪市議会議員、県会議員などの挨拶があり、こうした平和を願う日中友好の輪を広げようと市が中心になって取り組まれている事には驚いた。談話の中、雨が降り出す場面もあったが無事参列者全員の焼香も終了し、我々と同行した名古屋大学留学生の馬さんによる挨拶を最後に慰霊祭は幕を閉じた。(みのうら)



地下壕の入口で参加者に説明する加藤明さん



地下壕内部を見学する参加者



中国人殉難者慰霊祭で焼香する参列者

中国のサッカー「暴動」の報道に思うこと

全学技術センター 河合利秀

サッカーアジア選手権の報道は、中国サッカーファンの行儀の悪さに非難を集中した。決勝戦は中国×日本となり、北京サッカー場を埋めた中国サッカーファンは中国の優勝を信じ、試合の行方を「固唾を呑んで」見守った。

国家斉唱の「君が代」はブーイングと罵声にかき消され、中国に利のない判定に地鳴りのようなブーイングの連鎖が沸き起こり、日本が得点を重ねるたびにグラウンドに物が投げ入れられた。ここまでではすでに繰り返されたことだ。

しかし、試合終了と同時に「敗戦」を納得できない人々が日本の関係車両を取り囲み投石に及んだ。これが「暴動」として伝えられることになったのだが、渦中の日本人は敵意に満ちた彼らの行為に、大いに驚いたことだろう。

しかし、日本の新聞・テレビ・雑誌は、以下のことは伝えない。驚異的な運動量で日本の攻守の先頭になった中澤や正確無比

なパスで得点機を何度も演出した中村俊介のプレーにおしみに拍手で応えた中国のサッカーファンが、一部の行儀の悪い人々の行為に「中国の恥」と顔をしかめたことを。

中国は広い。経済の発展した沿海部は教育も行き届き、スポーツを通じた友好もよく理解する。

しかし、スポーツが国威発揚の場として利用されていた側面が強いが故に、経済的に取り残された圧倒的多数の内陸部では偏狭なナショナリズムを助長した。

そして中国政府は事前にスポーツ精神を訴え、会場の警備では異例の物々しき、試合終了後な中国人観客が会場から出るまでの2時間あまり、日本の観客と選手を会場に足止めするなど、最悪の事態に備えた特別の努力をはらった。それにもかかわらず、投石が公使の車の窓ガラスを割り、「暴動」報道となった。

スポーツを国威発揚の道具として利用してきた中国政府は、

この顛末から、4年後の北京オリンピックまでの課題が、国民の「フェアなスポーツ精神」の獲得であることを認識したに違いない。

ところで、なぜこのように日本人ばかりがブーイングを受けのたろうか。このことに踏み込んだ報道が無いのは、日本のマスコミが如何に無知であるかを象徴するようだ。

かつて日本軍が「三光作戦」を展開した中国内陸部で、繰り返して起きた日本人留学生の軽はずみな行動やビジネスマンの歴史認識に欠ける言動は、経済的に立ち遅れている人々の苛立ちのはけ口となったであろうし、小泉首相の靖国参拝や尖閣列島所有をめぐる国境問題などは「内陸部の人々の鬱積した感情」を暴発させるには十分だった。

「三光作戦」とは「奪・焼・殺」の三つの光という意味で侵略の性格を最もよく表す言葉、クニヤンを見つけたら輪姦はあたりまえという中国遠征日本兵たちの述懐から、三光作戦は「正義の戦争」という日本兵の倫理観をも破壊しました。

経済的に遅れた中国内陸部の政治状況は、沿海部とは様相を異にする。

チャンネル2などの中国問題に関する掲示板には、日本人商社マンが毎晩買春にはげみ、それを「経済援助」といってはおかない輩の投書が後を絶たない。ここでは、日本人の中国人蔑視の態度とともに、日本人が持ち込むお金に溺れ人格を破壊されていく中国人たちの極めて深刻な事態の進行が綴られている。成金作戦とでも言おうか。三光作戦と同様、中国人の人間としての誇りを大きく傷つけていることに変わりはない。

日本のジャーナリズムの姿勢に文句を言いたい。「暴動」ばかり取り上げないで、真摯な中国人サッカーファンの存在にも目を向けてほしい。そして、重い課題かもしれないが、過去の侵略と、現在の侵略をしっかりと受け止めた報道の目を、養ってほしいものだ。

日本の将来を考えると、中国との友好関係は今後ますます重要になってくる。なにも小泉政府の真似ばかりしないで、米国の一辺倒の姿勢を止めるべきである。

将来に新たな火種を残さないためにも、お互いのフェアプレーを尊重し、拍手を送るうではないか。

名古屋大学平和憲章

エッセイ

審査結果

名古屋大学生協では、名古屋大学平和憲章が1987年2月5日に制定されて以来、名古屋大学平和憲章を組合員に広めていく活動に取り組んできました。今年度は新入生を始め多くの学生・院生の方々に平和憲章の精神を引き継いでいくことを目的に、5月21日から6月30日までの期間で、平和について、戦争について、一緒に考え、自らの言葉で表現する名古屋大学平和憲章エッセイを募集しました。約1ヶ月の短い期間ではありましたが11の作品が寄せられました。ここに審査結果、講評と入選作品を発表いたします。

審査結果

入選（1名）副賞「オキナワの旅」旅費全額援助
岡田将行（理）

「戦争から考える平和感」

佳作（5名）副賞図書券5000円分
上月隆志（理）

「メディアを通じた『戦争と平和』」

下出裕子（経済）

「平和を哲学する」

山本泰慈（法）

「日本に求められること」

安藤芳生（理）

「自衛隊の派遣について」

洪久奈保（工）

「戦争と平和の刺激」

講評

イラク戦争と連帯の自衛隊派遣や親族の戦争体験に触れて、身近な戦争と平和を考えたり日本人の平和ほけを戒めたり、また、平和のために何ができるのか考えあぐねている、というタイプのものが中心でした。手軽に書ける量のエッセイだったからでしょうか、全体として自分の置かれている状況を踏まえた軽いタッチの平和論で、それなりに良かったと思います。ただ、エッセイとはいえず、

(1) 不戦と非戦を宣言した私たちの名古屋大学平和憲章に触れるものがなかったこと、

(2) 平和とそれを破壊す

る戦争を現実的に考えるためにも、私たちが世界に誇れる日本国憲法9条にかかわって、1931年の柳条溝事件（満州事変の発端）に始まる15年戦争の歴史を踏まえるようなものがなかったこと、そして

(3) 応募数が少なかったことは、大変残念に思いました。いささか辛口の講評になりましたが、むしろ、エッセイ募集の時期・期間や課題の宣伝方法に問題がなかったわけではありません。

これらを反省しながら、来年は是非とも多くの優れたエッセイが提出されることを願っています。

審査委員長 福家俊朗

戦争から考える平和感

理学部数理学科4年 岡田将行

1. 第2次世界大戦と現代教育

日本は、1941年に真珠湾攻撃をきっかけとしてアメリカに宣戦布告し、戦争の道を歩みだした。そして日本軍は次第に敗れていき、最後は沖縄で住民を巻き込んだ戦闘が行われ、本土も各地が空襲され、広島、長崎には原爆が落とされた。この事実は日本国民にとつて忘れてはならないことで、世代が変わっても記憶にとどめておかなければならぬことだと思ふ。しかし、そのため教育はされているかといえ、必ずしもされていらないと思う。たとえば、教科書での第二次世界大戦の扱いは、事実だけを簡潔に述べたもので、

過去にあったこととしてしか捕らえられない扱いである。また、教科書以外では、広島や長崎、沖縄に行つて戦争について学習する修学旅行を行う学校は多いが、最近では海外や北海道への修学旅行を行う所も多い。つまり、戦争があつた・日本が被害を受けたという事実は知っているが、実際に戦争の被害にあつた人がどのような思いをしたか、戦争が行われている状況がどんなものだったかまで知る機会がないと思ふ。唯一の被爆国・戦争によつて多くの犠牲を出した国として、戦争の真の姿を後世に伝えたいと思ふ。

2. イラク戦争と現在の若者の意識

昨年イラク戦争がおこつてから、各メディアでは毎日のよう

にイラク情勢が報道されている。しかし、そのほとんど多くは、被害を受けた住民を紹介するのではなく、艦砲射撃であつたり、空爆だつたり、戦車や車の行進であつたり、戦争の一面しか映していない。それにより、子供や若者は一見「ミサイルはきれいだ」とか「なんとなくかっこいい」という意識をもつてしまう。実際に自分の友達の前にもイラク戦争を肯定する人間が多い。理由は、(もちろんフセインの独裁政権に反対する意味もあるが)力で物事を解決すればいいと思つているからである。しかし、イラク戦争は、根拠のない言いがかりから始まつた戦争であり、それによつて多くの戦争に関係ない人々が命を落としたり怪我をしている。そのような姿が大きく伝えられれば、決して戦争がきれいやかっこいいものだとは思われないと思う。そして、力のあるものが力のないものを虐げればいいという発想も、力で虐げた結果が見えて、自分がイラ

ク国民だと思えればなくなるだろう。その事実の部分を紹介していいことで、子供や若者の意識は麻痺しているのではないだろうか。

3. これからの平和活動

上記2つの共通していることは、事実をすべて知らないことである。過去のことであれば紙の上でしか知る機会がない、なかなか戦争地に行けない、現在のことであれば偏った報道が続いていることが原因である。このままでは日本はまた戦争国家に進んでいってしまうだろう。ここで、各学校・大学生協は、戦争の事実をすべて知る取り組みをしなければならぬと思ふ。自分も地域センターの平和活動担当として、できるだけそのような機会を設けられるようにしたいと思ふ。

に 思 う こ と

全学技術センター 河合利秀

8月6日、それは毎年巡ってくる、特別な日である。

8時15分、ヒロシマに向かつて黙祷をささげ・・・原水爆禁止の誓いを新たにす。

毎年毎年、これを繰り返して、そして59回目となったこの日・・・

僕はこの日を特別な日だと思う。

世界中の人々が、平和を祈る。ヒロシマで焼かれた人々に思いをはせ、そしてヒロシマ以後に戦争で殺された人々に思いをはせながら・・・平和を希求する人々の祈りは続く。

高齢となったヒバクシャの声は、若い世代に引き継がれようとしている。

平和記念式典の小学校6年生の男の子と女の子のすき通った声は、若木がまっすぐ芽をのばすすがすがしさを感した。この子たちがどうかまっすぐに育ってほしい、否、まっすぐ育てなければならぬ。それが僕たち大人の使命なのだ。

それをあらためて宣言したのは広島市長だった。

核兵器廃絶のためのあらたな共同運動を、並々ならぬ決意で提起された。久しぶりに、子どもと大人のスクラムが気持ちよい。

しかし次の瞬間、この世のものとは思えない悪意と欺瞞が、この場に最もふさわしくない男から発せられた。その名は小泉純一郎である。

いつもの激情的な短フレーズのパフォーマンスとは異なり、いかにも官僚が作つたであろう文章を棒読みするその声は、なんと冷たく空々しく空虚にその空間を満たしたことだろうか。

ここに集まつた人々にとつて、最も聞きたくない、真実や誠実のひとかけらも無い言葉であり、情景である。オリバー・カーン監督ではないが、「恥を知れ!」と・・・言い知れぬ怒りがわいてくる。

新聞やテレビは慰霊祭の一分のみを報道し、決して真実を伝えない。

現在の核兵器廃絶の国際的運

動がどのような広がりや深さを獲得しているかを、伝えようとするのではないのだ。

たしかに我々の目の前に映っているTVの映像は間違いないのだが、切り取られた断片を再構成して解説を入れたとき、真実とは異なる印象を作り上げる。

私たちがヒロシマに祈りをささげているとき、世界が平和では儲からないと考える人々は「日本国憲法9条」に難癖をつけ、その廃棄を迫っていた。

平和記念式典に空虚な言葉を発している小泉純一郎こそ、その代表であるのだ。

表向きはヒロシマで核兵器廃絶を唱え、裏では「戦争しない」と誓った憲法を変えようとする小泉純一郎。

この構図を、マスコミは決して報道しない。

かつて日本が日中戦争に突入していったとき、報道各社は政府の思うがままになり、国民を扇動・洗脳し、悲劇的な破局を招いた。その責任を負わなくては



8月6日

ならない彼らが、またもや同じ過ちを犯そうとしている。

ブッシュ政権高官はことあるごとに憲法9条の放棄を迫る。これは明らかに「内政干渉」である。

日本の報道は中国や韓国が教科書問題や靖国参拝に文句をいうと「内政干渉」とはやしたてて宣伝するマスコミが、米国の憲法9条放棄要求は「内政干渉」とは報道しないのはなぜか。

国の最高法規である「憲法」を、たとえば友好国であろうとも「変えよ!」というあつかましさこそは、「内政干渉」であるのに、中国や朝鮮半島を侵略したという歴史的事実を教えない日本の教科書を、侵略を受けた人々が批判するのは当然のことであつて、むしろこうした声上がるような「不安」を日本政府が中国朝鮮半島の人々に与え続けていることを報道せず、彼らの心配を「内政干渉」と言いくるめるのはきわめて狡猾で悪意に満ちている。日本のマスコミはいつから「内政干渉」の定義を変えたの

だろうか。

いま小泉純一郎は「聖戦」を日本に持ち込もうとしている。

「紛争地域の秩序を守るため自衛隊を派遣し武力行為も含めた治安維持活動を他国と協力して行うために法律改正する。」

上の文面をもう少し現在の国際情勢に即して言い直してみよう。

「米国が気に入らない政権を転覆したが、その国の人々の根強い抵抗に困っているのに、自衛隊を米軍指揮下で活動できるように日本国憲法その他の法律を作り変える。」

紛争地帯の人々の治安を守ることは「正義」である。そこに自衛隊が出て行くことは正義である。つまり「聖なる戦い」に参加することだ!!と、もうじき小泉純一郎は派手なジエスチャーでこのように絶叫することであろう。

しかし、考えてほしい。小泉純一郎がどんなに正義を唱えよう

とも、戦争そのものが邪悪な陰謀と術策によって引き起こされた人類の最も恥すべき行為なのだ。

現に、アフガンもイラクも、完全に米国オイル業界のお抱え戦争であつたわけで、石油の世界戦略でまんまと利権を手に入れたことは成功だったが、アフガンやイラクの人々があんなに抵抗するとは思ってみなかった。

このままでは米軍の死傷者が多くなるので、はやく自衛隊に代わってもらおう。そうすれば死ぬのは日本人だし、米大統領選挙も反戦運動も乗り切れるだろう!...これが米国ブッシュ政権の本音である。

さあみなさん、これが8月6日小泉純一郎の声明の後ろに隠れている真実です。

彼の言葉に一片の誠意もないと感じるのは、僕がこうしたことを知っているからです。

みなさんの耳には、どのような響いたでしょうか。

新フィールド・ノート — その84 —

台風の際間を縫って

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

今年は台風の当たり年のようである。アテネオリンピックにおける日本の金メダル数十八個と同じ数の台風十八号がまたも日本列島を襲ったところだ。

台風十号は七月二十六日頃小笠原諸島に近づき、二十七日、二十八日と伊豆諸島を襲い、二十九日には、高気圧に阻まれて、真西に向きを変え、それから西へ西へと太平洋岸沿いに九州へとゆっくり移動し、そして三十一日に日本海に抜けて熱帯低気圧になった。

その次に日本列島を襲ったのは、台風十五号で、南西海上からゆっくりと北上し、琉球列島を直撃したのち、北東に向きを変え、日本海に沿って進み二十

日には北海道に達した。

この二十日の時点ですでに、台風十七号が太平洋のはるか南の海上に姿を現していた。

私は二十四日の釧路行き航空券をすでに購入していた。今年の日本生態学会は釧路で開催されるのだ。台風十七号は直前に西へ逸れ、私は二十四日に名古屋空港を立つことができた。この時点では、名古屋に帰るとき、またもや台風の影響を受けるとは夢にも思いはしなかった。

釧路空港からバスで市内に入り、ニューキャッスルホテルにチェックインする。ホテルの窓からは釧路川を見渡せる。

その日は特に予定もなく、ホテルを出て幣舞(ぬさまい)橋を

渡る。釧路川の上流は急カーブしており、対岸が正面に見える。河岸の上部は小高い丘になっており、そこに色とりどりの家が並んでいる。その日暮れ間近の光景はセザンヌの風景画を思わせる。

翌日、日本生態学会の自然保護専門委員会に出席し、夜には生物地理学に関するシンポジウムを出す。講演の中で、シジミチョウ科の系統分類と生物地理に関する話を聞いた。シジミチョウの幼虫は、ブナ科の樹木の葉を食べるので、とても興味を引いた。講演中に質問をし、講演が終わった後も議論が続いた。別れ際に、シジミチョウの専門家である小田切さんから、緑色のミドリシジミが描かれた名刺を貰った。

若い人達に、夜の懇親会に誘われたが、断り、昨日同様、四季彩という寿司屋でサンマの刺身を注文する。新鮮で、これがサンマかと思うほどうまい。

翌二十六日には、釧路から函館に飛び、函館から特急に乗り、

野辺地へと向かう。去年、娘と車で回ったとき、下北半島ではブナが豊作だったのであった。ブナの実が六年ほどの周期で豊作になることは知られているが、全国的に同調しないようなのである。昨年、穂高では豊作の予定であったが期待外れであった。

野辺地から大湊線に乗り換え、終点の大湊まで行く。小さな町で、意外と宿が混んでいる。空いている部屋が見つからない。むつぐランドホテルで一つ空いているという。シングルはなく、スイートルームを通常は三万円のところ一万円で貸すという。大湊線で一つ手前の下北駅まで戻り、タクシーでむつぐランドホテルへ向かう。ホテルは小高い丘の上にあり、とても見晴らしがよい。

翌日、迎えに来たタクシーで、そのまま山に向かった。恐山行きのバスは出ているのだが、目指すブナ林は途中で道が分かれているのである。今日は前の晩とは違う宿なので、荷物を抱えて出なければならなかった。恐

山と宇曾利湖へ向かう道から逸れて、ブナ林が現れた辺りで、タクシーを返して歩きはじめる。

去年、その辺一帯はどの木もブナの実を大量に付けていた。実を多く付けた枝は、葉の養分を使い切つて、次の年には枯れてしまうようなのである。見渡すとブナ林のあちこちに、白骨状の幹や枝が認められる。

ブナ林の中に入り、実生の調査を行った。ササに足を滑らせて転んだままだましく立ち上がれなかった。宿に帰ってから気づいたのだが、すねに傷あとがあり血だらけであった。

ブナの枯れた枝がところどころに落ちていて、普段はササに覆われて見えないブナの実生が枝の隙間から顔を出している。野外調査における今の流行りは出来るだけ規模の大きい面積を調査することである。そこで頑張つて、一ヘクタールほど調べて回ることにした。ふと気付くと、荷物を置いた場所が分からなくなつてしまった。四方を見ても、白い幹のブナの樹ばかり

である。折り尺という木製の物差しを若い木のこぶに掛けて目印にしておいたのだがいくら探しても見つからない。二度も三度も同じところをササを分けながら歩き回つた。どれだけの時間が経過したのだろうか。ついに荷物を見つけることが出来た。

ブナ林での調査が済んで、まだ時間があるので、釜伏山まで足を延ばすことに決めた。そのブナ林からはいくぶ距離があるので大変である。荷物は林の中に置いて出かける。どれだけ歩いただろうか。お釜を伏せたような釜伏山が見えてきた。雲一つない晴天で、陸奥湾が遠く見渡せる。

山頂付近には、ミズナラの矮生化した背丈のきわめて低いミヤマナラが分布している。今年はミヤマナラのどんぐりが豊作のようだ。このミヤマナラがミズナラとどのような関係にあるかというのが、現在修士過程に在学中の里見さんの研究テーマである。

さて、帰りも歩きで大変だ。昨

晩とは異なる宿に泊まるため先ほどのブナ林まで戻り、荷物を抱え延々と歩いた。十キロ以上も歩いただろう。この年でこんなに歩けるとは思いもよらなかった。途中で冷水(れいすい)というバス停がある。恐山から引き返してくるバスが停車するはずだ。長い道のりを歩いたので、足が痛い。バスの停車時間は、午後の三時四十分と五時四十分である。ときおり乗用車が通り過ぎる。車に乗せてくれそうな奇特な人はいそうもない。

あと一キロメートルほどでバス停だというところで、振り返ると、恐山からのバスが来るではないか。予定の時間よりも早い。手を挙げて合図をしても、あいにく急カーブで、運転手はこちらを見ず、頼みのバスはあつという間に通り過ぎ去つて行つてしまった。

そのあたり一帯はヒバ林が多い。次の五時四十分まではあと二時間ほどもある。こうなつたら、ヒバ林の調査でもするか、と覚悟を決めたそのとき、一台の

車が目の前に止つた。

岩手から観光に来たという年配の夫婦であつた。行きにも見かけたが、帰りにはまだ歩いていたので驚いたという。私がブナの調査をしてきたと話したところ、その夫婦は山菜採りや山が好きで、ブナのことはもちろん、キノコやクマの話でもちきりになり、あつという間にむつの街に着いてしまった。

その晩泊まった宿は料金が安い上に、夕食が山のような御馳走であつた。関の井という地酒を、銚子で一本頼んでみた。そのあまくて得も言われぬ味で、今日、一日十キロメートル以上も歩いた疲れが取れたように感じた。

台風十七号は、私の去つた後の北海道を襲い、台風十六号が名古屋方面に近付いているという。北海道と下北半島に居る間台風の影響を受けなかったのは幸いであつた。今現在吹き付けてくる強い風は、日本海に抜けたはずの台風十八号だ。

ツメで拾って

イラクでは、主権委譲後も相変わらず暴力の応酬、爆弾事件等で、数十人単位で人が死んでいるという報道が絶えない。九月に入ってから、ロシアのオセチア共和国という普段余り耳にしたことのない平和な町で、テロ集団の学校占拠事件、その解放も随分荒っぽい遺り方で死者の数は日を追って増え、初め150人以上と言っていたのが、300人を超える死者。500人を超えるかも知れないと言う。その大半が子供という。痛ましいと言っても、こんな痛ましいことは他にない酷いことだ。

ロシアではそれより前にも、ほんの半月の間に、飛行機爆破事件や、自爆事件が相次いでいる。ことだ。白血病にかかった人はイラクでは9割以上死ぬという。まだ、治安も良くない上、治療薬・治療技術・治療機器等も整わないところで、骨髄移植となれば殆ど不可能に近かろう。それで、治療に耐えられる子供が選ばれて、いろいろの援助を得て来日して治療を受けているのだが、今回は、成果がはかばかしくないと言う。本を正せばこれも湾岸戦争の後遺症、よく正体が分からないが、「劣化ウラン弾」という物の所為らしい。アメリカは人体に影響ないという。信じられますか。何故そういう物を使うのだろうか。古い武器の整理のためなのか。早く、そういう思想を捨てて欲しい。日本にまで、憲法9条の改悪を迫っている。内政干渉ではないか。

話をそれてしまったが、一人の生命を救うために随分の費用を使って、多くの人が協力し合う。このことはとても素晴らしいことだ。しかし、そのもとを作った原因を取り除くことも大切だ。するとどうしても政治の問題に行き着いてしまう。一人の生命は地球より重いと云われる。確かにかけがえのないものだ。だったら、東になつて死んでしまう人達の命はどうなのか。この人達の命も同様に尊いはずだ。ツメで拾うように難病の子を救うのは結構なことだ。一方で、箕で捨てるような大量殺人・虐殺などということの根絶を願わずにはおれない。(T 04・9・5)

うら盆・三位一體・さんげ

8月15日を中心に日本中が盆の休暇、町はひっそりと静まりかえり、その代わり、行楽や故郷に帰る人達で、高速道路はどこも渋滞。其れでも、人々は大移動を繰り広げる。これは、盆と正月の年中行事になつていて。ところで、「盆」の語源については、「ウランバーナ」(逆さぶりの苦しみ)から、我が母を救おうとした木蓮尊者の故事に由来するとか、阿難尊者があと何日だと云われた寿命をお釈迦様にすがつた。

ん。

檀家の方とお話ししていて、「三位一体」と書いて何で小泉さんは「さんみいつたい」と言うんですかね、と言われるを聞いて、これはやっぱり説明がいるのかなと思いました。「観音」は四国の地名の「観音寺」は別として「かんのん」と読むことや、「善悪」なども「ぜんあく」と言わず「ぜんなく」ときに「ぜんまく」と言われたりします（もともと、現在では段々こういう読み方は少なくなっていますし、「ぜんまく」は耳にしません）。「雪隠」という言葉も聞かなくなりましたが、「せついいん」でなく「せつちん」です。こういうものと一緒なんですと説明したら「成るほど、初めて聞いた」と言われビックリしました。こういう事も言語教育の中身だと思ふのですが、不幸にしてそう言う教育は受けてこれなかった人がいるということだと思えます。最近、こういう「連声」の現象が少なくななり、文字通りに読むことが多くなったことも一因かも知れませ

ん。

やっぱりお経を読んで

いて思ったことですが、修証義の第二「懺悔滅罪」という章、ここには何回も「懺悔」という言葉が出てきます。我々はこの「さんげ」と読みならわしています。ところが、世の中ではこの言葉を多くの人が「ザンゲ」と読みます。歌謡曲にも「ザンゲの値打ちもない」などというのがあったと記憶しています。キリスト教では仏教の「ザンゲ」をわざわざ変えて「ザンゲ」と言っただけということが聞いたことがありますが、確かなことは知りません。この「懺」という文字の音は「サン・セン」で、「ザン」は慣用音として認められているものです。元々はなかったのかも知れませんが、今の世の中ではザンの方が断然多いので、趨勢としてそうなってしまうのかも知れません。坊さんの中にもそう発音する人がいますが、われわれとしては、あくまで「サンゲ」を維持していきたいと思っています。

(T 04・8・15)

マイバッグ運動は終了します

2000年8月1日から、「袋いりません」宣言を習慣化することを目的に実施してきたマイバッグ運動は、スーパードなどの景品（20個で100円）に比べるとよい（40個で500円の利用券）こともあつて消しゴム1個、筆記具1本でもスタンプ押しを堂々と求めてきたり、買物物を数回に分けてレジに何度もならんだりと本来の趣旨から離れた活用をされる人が目立つてきました。一方、レジにおけるレジ袋の使用枚数は毎年減ることはなくほとんど変化はありません。こうした状況を受けてマイバッグ運動は本年10月末日をもって一旦終了することになりました。

私はマイバッグ運動は利用者にとつては認知されているかも知れないが、一般組合員にとつてはその宣伝方法などにも問題があり認知させてこれなかった

ことに問題があり、今後も引き続き運動を呼びかけながら景品の良さが問題であれば景品を下げてよいので新しいマイバッグ運動に速やかに変更すればよいし、スタンプカードももう既に押されているものについても新カードに押しかえるような形で出来るのではないかと利用者の立場から理事会などで提案してきたのですが、お店の対応が出来ないなどの理由から取り入れられることはありませんでした。

7月末日より新たなスタンプカードの発行は終了しています。すでに発行済みのスタンプカードをお持ちの方は10月末日までのご呈示分のスタンプは押印いたします。なお、景品の交換につきましては11月15日までです。お早めにご交換下さい。

(箕浦)

手持ちのスタンプカードの

景品交換は11月15日までです

か

7・8月号
の感想

インタビュー面白かった

★14ページにわたる松井恒雄先生のインタビューは大変面白かった。学生時代から今日にいたるご本人の経歴や、今後のエコトピア研究機構や生協の発展に向けた提案を読んで、やはり人の上に立つような人物は、いろいろなことを経験し、また、考えているんだなあなどと思った。

【だるまおとし】
★研究科長インタビューはおもしろかった。【マツカイ対応】

勉強になった

★エコトピアの機構長のインタビュー、いろいろと勉強になりました。

【びつくんさんだーもうんてん】

だから「かけはし」か

★研究科長や学長の人たちは、学生にとって遠い存在なのが正

直なところ。同じ大学なのに、「偉くなられてお忙しいから・・・」と、どんな方なのかほとんど知りません。どんな研究をしていたのか？ これからどんなことをするのか？ どんな考えを持っているのか？ 学生にとって参考になることはないか？ この「かけはし」が、架け橋に・・・あつ、なるほど。だから、かけはし・・・

【名遊亭キングカズ】

学生として参考になる

★研究科長のインタビューは大変含蓄のあるお話でした。研究者を目指す一学生として参考になる良いインタビューでした。

【橋谷一志】

インタビューは興味深い

★今回のクイズは難しかったです。松井先生のインタビューは興味深く読めました。また、ニュースに「喝コーナー」は、自分が普段思っていることと全く同じことを書いてあり、そうだと、そうだと、思いながら読んでいました。

【Tech】

け

一つひとつが長い

★もつと多くの記事を読みたい。一つ一つが長い。【くじら】

魔言に納得できない

★魔言の「納得できない」の内容に、私は納得できません。大学院生であろうと被扶養者であろうと、実際に居住しているところへ住民票を移すことが本道であると思う。しかし、本文を読むと、居住している所に住民票を移さなくても、選挙の時はわざわざ帰ってきて投票するのだから問題ない、居住している所に税金を納めなければならぬ点についても収入が少なく非課税だから問題ないと主張している。本当に問題がないのだろうか？

国政選挙はともかく市町村長選挙などの地方選挙については、実際に居住している地域の代表者を選ぶことが本道であると思う。また、地方行政局は住民台帳に記載されている人口規模に見合った行政サービスを提供するように運営しているが、多数の未登録居住者がいると行政サービスのバランスが崩れてしまう。

は

他の地域住民に配慮せず、どこで選挙権を行使しようとするの自由だ、自分には不利益がないのだから問題ない、といくら主張しても、「まやかし」であることに違いはない。今年度から役所がその「まやかし」に対応しなくなったのは納得できないという主張はいいかなものか。【G】

生協祭に来年こそは

★北部生協祭は参加できませんでした。来年は行こうと思えます。【のりびー♡】

なかなか難しかった

★今回のクイズはなかなか難しかったのでは。【com】

意見と

通信

夏期営業日をかけはしに

★この時期になると、夏期休暇中の生協の営業日が気になってくるのですが、「かけはし」に掲載していただけると、非常に便利です。【com】

本の紹介には価格も

★裏表紙に新刊本の紹介が載っていますが、できれば値段も書いておいていただけると参考になると思います。「マトリックスレポリユーシヨonz」の上映会を行ったそうですが(残念ながら参加できませんでしたが)、次回はぜひシリーズものの3作目などではなく、予備知識の要らない映画の上映会を開いてほしいです。

【だるまおとし】

学生のインタビューも

★記事には学生などのインタビューは面白いと思う。もっと名古屋大学を知りたい。冊子、記事の目的が初見でわかりにくい、それぞれにあり文句など欲しいものである。

(例)「名大情報満載の地域密着冊子」(〇〇がつぶやく不老町の日常)など特に魔言。何故こんなところにただの愚痴が載っているのだ? 生協の営業時間を延ばしてください。特に環境量子のところ! 環境量子の販売店でカードが使えるようになるの便利。

【橋谷一志】

海外のショートコメントを

★「世界の車窓から」をイメージして、海外に行った人のショートコメントコーナーを作る! 世界の白地図を載せて、紹介した国は塗りつぶしていく...終わるのは十数年後? でも、かけはしの伝統になって面白いかも! 【名遊亭キングカズ】

オススメ本の充実を

★生協にあるオススメの本を充実させてください。またLumniのように、名大生協が発行する本の紹介みたいなものもあると読書する人が増えると思います。

【くじら】

年金のノウハウを

★年金のノウハウなんかを記事になさってはいかがでしょうか? とくに大学教員はあちこちに移動したりなんなりで複雑になっ

【ecch】

研究科紹介を続けて

★各研究科の紹介を続けてください。

【G】

北部食堂が混んでますね

★今年は北部食堂が混んでいるような気がします。なんてなんでしょう? 学生数が増えたんでしょうか? 【マツカイ対応】

バイナツプは品揃え悪い

★バイナツプカフェに行きました。思っていた以上に品ぞろえが悪かったです。【のりびー♡】
▼バイナツプカフェは生協でこの話もあつたのですが厨房スペースが狭く十分なサービス提供は不可能と判断しお断りしました。【箕浦常務】

本部近くにも売店を

★本部のあたりに小さくてもいいので、生協の売店を置いてほしいです。【しげによん】

食器洗いが雑では!?

★食堂の皿洗いの雑さを取り上げて欲しい。忙しいのは分かるけれど、あまりにいい加減すぎる。石鹸水につけてそれだけでは、洗剤が食器に残っていそうだし、実際後輩は湯飲みになんじんの切れ端が付いていたそう。

【なっちゃん】

レジ袋を透明に

★生協のレジ袋はなぜ白なのでしょう? 透明なら今のところ資源ゴミを入れるための袋(家庭で)に使えるけど、不透明だとそういった利用もできず捨てるしかない(プラゴミ? 不燃ゴミ?)。巷のスーパーみたいに指定ゴミ袋にしろとまでは言わないから、せめて半透明にしてほしい。【ナンバー6】

総代選びのプロセスは?

★総代会の代表選びのプロセスは載ってましたつけ【松本哲男】

理カフェの8時間店は早い

★理系カフェの閉店時間をもう一時間遅くしてもらえると非常にうれしいです。理系地区は近くに飲食店がないことから、理系カフェに夕食を食べに行くのですが、8時間店では早い気がします。【ムロ】

サギ電話にご注意を

★サギまがいの電話がよくかかってきた時期があったので、そういう特集を【BAIKALIST】

ニュースに一喝!

選手ふぜいが

プロ野球の近鉄バファローズが球団の経営が苦しいからオリックスと合併するという話が、今年はシーズン中からやかましい。それを巡って、近鉄球団そのものを買収しようとする話もあったが、それは拒否したという。球団のオーナーから、鉄道会社が撤退したのは南海、阪急、以前の国鉄など、経営難からだったのだから。その前には、映画会社がオーナーだった時代もあった。松竹ロビンスなどという球団もあった。ダイエーと響きは同じでも「大映」「東映」もオーナーだった。バリーグは8球団というときもあった。

それとはともかく、時の流れを感じるが、その中で、そのオーナー達の言動が注目を集めた。もう一つ合併話が秘かに行われていると言ひ、一リーグ制にしようということが、消えたり浮かんたりしている。ファンも選手達も猛反対。選手会はスト権まで確立して抗戦姿勢。反対署名を集めたりしている。合併差し止め請求とか、仮処分の申請とか、野球にはなじまないような動きがかまびすしい。その中で、巨人のオーナーが「選手ふぜいが……」といった。「ばかばかしい議論だから……」とオーナー会議を途中退場もした。

今や、野球チームは、競馬馬のオーナーとは違って一オーナーの私物ではなくなっている。このオーナーの発言はとうてい許されるものではない。会社長の社長が「従業員ふぜいが云々」というような事が過去にはよくあったが、今そんなことを言ったら忽ち大問題だろう。また、この合併問題は決着がついていないが、巨人の選手獲得競争で金銭が動いたことが明るみに出て、このオーナー、ついに引責辞任に追い込まれた。これは、いわば別件逮捕みたいなものだったのだから。少なくともそう感じられた。この合併騒動の中で、合点のいかないこ

とに、いわゆる「コミッショナー」がある。一体、このコミッショナーなるもの自体よく分からないものだが、今回の動きの中で、なんの働きもしなかったのは元々そういう影の薄い飾り物に過ぎなかったのか。

この発言オーナーに限らず、権力の座に長くいると周りが正しく見えなくなることは、大は、

テロの原因

ブツシュ大統領の、次期大統領選挙の候補受諾演説を聴いた。相変わらずだ。又、この人が大統領になるものなら、これからの世界の不安は彼の意に反して益々大きくなるだろうと、暗澹たる気持ちになった。テロを力で押さえ込もうとした結果が今のテロ頻発の状況だ。その原因に対する洞察が少しもない。軍事費に使うお金の一部でも、世界の貧困対策や福祉政策、教育へ回したらどうだろう。テロに駆られる連中もその大本を正せば金の問題に帰するだろう。そんな単純なものではないと言っただろうが、しかし、突き詰めればそこに行き着くだろう。世の中なんでも金で片付くと言っているのではない。しかし、金はその大きな部分を占めていることは否定できない。

軍事産業にばかり目をむけていず、世界の隅々に目を向けて欲しい。今やただ一つの超大国アメリカの大統領は、他国のやることに文句を言うばかりでなく、自らの利益を追求するだけでなく、世界の人々の生活向上に心を致す義務が有ろうと思ふ。それは何より教育ということに行き着くだろう。教育の向上に力を貸し、自分たちで向上できる環境を作ることは近世以来西洋人が搾取してきた国々の多くの人々に対しての償いでもある。一部の飽くなき利益追求に追随するのをやめて、本当にすべきこと、人間としてすべきことを追求して欲しいと望む。

多くの人がそれを望むだろうし、ひいては、それがこの地球上から忌まわしいテロを無くす有効な方法だろう。(田 2004.9.5)

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名.....組合員証番号.....

○所 属.....研究科
学部
センター.....専攻・課
学科・掛（教職員・院生）

○連絡先.....内線.....

○誌上匿名希望の方はペンネーム.....

.....山.....折.....り.....

①講演会「風力発電の現状と展望」【10月28日（木）】

②久居榊原風力発電施設の見学【11月3日（祝）】

③りんごの産地見学【11月23日（祝）】

参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	内 線	年 齢	組合員証番号

②③は保険の関係で年齢が必要ですので必ず記入して下さい。

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 255 号

クイズのこたえ _____

☆ 今月号を読
んでの感想

☆ 記事にしてほしいこと。生協への
ご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をみれなく記入してください。

CO-OP QUIZ

No. 255

2004年10月号

縦と横に書かれた数字にしたがってマスをうめていくと絵（または文字）が現れます。それは何でしょう。（ヒント＝「♪人は誰も・・・」）

[illegible]

クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

前回の正解は「EDOTopia」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

前回の
問題

前回の
問題

あなたもLogicの問題を創作(出題)してみませんか。問題の投稿も歓迎します。手描きでもOK。採用の方には図書券を進呈。

應募要項

- 締め切りは10月20日
○発表は本誌、11・12月号
○正解者(但し、①組合員
　　|| 当選後ご加入も可、
　　②意見・感想記入者)の
　　中から、抽選で5人の
　　方に図書券をさしあげ
　　ます。
○生協への意見・要望をど
　　しどしお寄せ下さい。

第254号の当選者

- ・応募総数 …… 10人
- ・正解者数 …… 10人
- ・当選者 (敬称略)

小幡祐美(理学研究科)
橋谷一志(工学研究科)
村上耕介(生命農学研究科)
藤野 修(多元数理研究科)
村上和隆(環境学研究科)

以上の5人の方に図書券をお送りします。

循環型の大学を目指して

名大生協は大学と協力して缶・ペットボトル、牛乳パックなどのゴミの資源化と循環サイクルを確立した古紙回収による学内使用のロールペーパー化などに積極的に取り組んできました。

名大生協では名古屋大学の一般廃棄物（ごみ）処理のガイドラインに基づき、

1. 飲料缶、ペットボトルの一元回収を行っています。

生協の店舗周辺はもちろんのこと、学内外の自販機利用によるものまで学内の共通ゴミ収集場所に集められた分は本部棟横の集積場に集められ、生協の負担で、取引業者の協力を得て一元的に回収しています。その本数は年間200万本以上となっています。

2. 牛乳などの紙パックの回収を学生たちが率先して回収に努めています。

生協の学生委員会メンバーが先頭に立って、各地区の生協店舗に回収ボックスを設置し（国際唎鳴館にも）、生協独自のリサイクルルートで資源化を行っています。年間約4万5千枚に上る紙パックが学生たちの力で回収されています。

3. ご存じのように学内で使用されているロールペーパーは学内の紙ゴミから出来ています。

容器・包装リサイクル法に基づき資源化が義務づけられています。大学ではそれに先立って2000年度から学内に古紙中間処理施設を設置し、生協が委託を受けロールペーパー化に協力しています。正に循環型のサイクルシステムが完成しています。

今後は現在不燃ゴミとして埋立処理されているプラスチック類についても石油製品であることから埋め立てないで、本当に燃やすことの出来ないものと分別して紙ゴミのリサイクルと同じように、有効に燃料として処分するようにしていかないといけないのではないかと考えています。パソコン機器や周辺機器、それらの消耗品についてもリユースやリサイクルおよび詰め替えなどができるものをメーカーにお願いし、使用していくことが望まれます。

今後も名大生協のこれらの環境の取り組みにご理解とご協力、ご提案をお願いいたします。

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052> 781-1111（内線7540）

- 書籍(和書・洋書・雑誌)に関するご相談は ●旅行(国内・海外)・宿泊に関するご相談は
北部書籍(内線7544) 南部書籍(内線7551) 北部旅行・サービスセンター(内線7543)
医学部書籍(内線5208)大幸書籍(内線5552) 南部旅行・サービスセンター(内線7550)
- 文具・事務用品に関するご相談は 医学部旅行・サービスセンター(内線5213)
北部購買(内線7542) 南部購買(内線7549) ●印刷とデジタルデータに関するご相談は
医学部購買(内線5209)大幸購買(内線5552) 印刷・情報サービス部(内線7552)
農学部購買(内線7557)
- レストラン「花の木」(内線7605) ●パーティー料理・弁当に関するご相談は
弁当部(内線7553) 理系食堂(内線7555)